

## 1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連  (北海道)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・依然として、新千歳空港を利用する訪日外国人が前年から30～50%ほど伸びている。また、消費税免税制度の対象品目の拡大により、客単価が前年より上昇していることもあり、爆買いとまではいかないが、好調な売上が続いている。	
		スーパー（役員）	お客様の様子	・観光客の増加、プレミアム付商品券の発行など、様々なプラス要因の積み重ねで消費が伸びている。	
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年と比べて、買上客数が約10%の増加となっている。特に多くのサラリーマンが休みとなる休日の売上は、毎週、良い数字となっている。	
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・10月は客の財布のひもがやや緩いようだ。ここ数が月みられなかった良い傾向である。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が前年よりも割安で安定しているため、販売量が比較的好調である。	
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・プロ野球クライマックスシリーズにおける地元球団の敗退により、予約客のキャンセルが相次いだものの、恒常的に堅調な中国、台湾からの外国人観光客で補てんできた。休前日の国内旅行客の利用も好調である。	
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来店客が増加している。平日の来店も増えている。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・上期は1日ごとの店頭販売額について、前年割れの日が多かったが、10月はほとんどの日が前年超えとなっている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・10月は天気が悪い日が多かったこともあって、タクシーの売上が前年と比べて10%増加している。運転手不足で車の稼働は落ちているが、会社の売上は前年から5%ほどプラスになっている。	
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・札幌などの大都市を中心にサービス解約が前年よりも減少している。また、新材への引き合いも若年層を中心に強くなっている。	
		観光名所（従業員）	販売量の動き	・10月は点検工事の影響で主力事業が休業しているにもかかわらず、付帯事業であるレストラン、売店の売上は25日現在で前年比120%と伸びている。飲食、物販の売上が前年を上回る状況は8～9月も同様であったことから、全体としてはやや良くなっている。	
		住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来客数が若干増え始めていることに加えて、客の購買意欲も少しではあるが強くなってきている。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・薬局、婦人衣料品店、靴屋などに聞いても、どこも若干低めで変化なしとのことである。プレミアム付商品券も利用はほとんどみられないとのことである。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、冬のボーナスはあまり期待できそうになく、景気もあまり良くないという雰囲気がある。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・プレミアム付商品券の効果なのかまでは分からないが、10月の売上は前年をやや上回っており、比較的、安定した推移となっている。外国人観光客も、10月に入ってから再び増え始めている。ただ、外国人観光客については、それほど大きな低下幅ではないものの、客単価の低下がみられ、中国景気の影響があるとの見方も出ている。
			一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・得意先の寿司屋では、注文も多く、客の来店も多いが、板前の手配が思うようにならず、人手が足りないことで、なかなか売上がつながらないと嘆いていた。働き手を集めることが大変な状況であることから、全体的には景気が上向いている雰囲気がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が前年比100%と前年並みとなっており、売上も微増している。特に外国人観光客による売上が前年比170%を超えるなど、外国人観光客の伸びに支えられている状況にある。一方、冬物アイテムの動きは気温の低下に伴い、10%以上の伸びがみられるなど、地元客への期待感も出てきている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・8月まで好調であった外国人観光客による売上が、9月以降、急速に減少傾向にある。一方で冬物衣料商戦は、例年より早い冬の到来でコートや手袋、マフラーなどの防寒衣料を中心に売上が増えている。また、年末年始のおせちやクリスマスケーキの予約販売も好調に推移しており、外国人観光客の減少分をカバーしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量が8%ほど伸びているものの、景気が良くなってきたという実感はまるでない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・2017年の消費税増税に伴う軽減税率導入に関するマスコミ報道、北海道の最低賃金引き上げの遅れ、台風による天候不順などの影響もあり、消費者の生活防衛意識は依然として高いままである。食品部門の来客数は回復しているものの、衣料品部門と住まい用品部門の来客数はそれぞれ前年比90%、93%となっており、一向に回復してこない。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・足元の売上状況を見ると、買上客数が増加傾向に転じているものの、客1人当たりの買上点数は伸び悩みが続いている。商品単価上昇の影響から、客の消費行動の慎重さが目立っている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・相変わらず商品単価が前年から約4%上昇しているが、客単価は前年から約1%の上昇にとどまっている。客1人当たりの買上点数の向上を狙っているものの、思うように上がってこない。ただ、景気が悪いと言われるなかで、安いものばかりが売れているわけではなく、良質の商材をし好する客も増えているが、客が1回の買物支出額をしっかりと管理しているようである。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年比でみると、売上よりも来客数の減少幅が大きくなっている。客の来店頻度が下がり、必要な時に必要な物だけ購入している様子が見える。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・10月は爆弾低気圧などによる荒天が3回もあり、学校の休校、鉄道や航空機などの交通機関の運休などにより、街ゆく客の姿も少なく、当店の売上も前年と比べて減少した。漁業定置網や農家にも大きな被害が出た影響のせいか、市内のホテルで開催した展示催事への来客数も今一つであった。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・テナント入居している施設への来客自体が少なく、当店の来客数も減っている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・売上は前年と変わらなかったが、来客数がやや減少している。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・サービス部門の来客数は増えているが、購入見込み客の来店が少なく、まだまだ景気が上向いている雰囲気がない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比較して、それほど増減はみられなかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道という土地柄、冬に近づく、この時期は景気が冷え込む傾向にあるが、今年は例年と比べて、1～2週間ほど早い冷え込みがみられることから、車の売行きが悪かった。タイヤ交換などの売行きも例年よりも早く落ち込むことになる。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光シーズンも終わり、観光客の入込が悪くなり、年末に向けての歳末商戦がどうなっていくのかが懸念される。また、客の財布のひもがなかなか固く、節約意識が高い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年よりも少し売上を落としたが、ぎりぎりのところで変わらないと判断できる結果であった。以前は週末になると客のにぎわいが感じられたが、今は活気がなく、客の回転率も良くない状況である。また、最近の天候不順の影響もあり、降雨の時間帯によってはランチやディナーへの影響がみられた。取引先の農業者や漁業者には、低気圧などの被害を受けた人もいたが、あるタクシー運転手は豪雨の影響で売上が前年を上回ったとの声もあった。	
		一般レストラン（スタッフ）	それ以外	・従業員が不足しており、売上機会を逃がしている。様々な媒体を通して募集活動をしているが、一向に応募がみられない。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・人の動きがみられない。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・少し寒くなってきたことで、客の来店機会が減ってきている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年とほとんど変化がなかった。観光関連の需要が若干マイナスとなったものの、イベント関連の需要は若干のプラスであった。	
		タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの売上がほぼ前年並みで推移している。	
		通信会社（社員）	お客様の様子	・景気の停滞感は変わっておらず、良い兆しを感じられない。客単価が下がっているなかで、別の商材を追加するなどして、客単価の上昇を狙っているものの、客が乗ってくることはなく、最低限の商材の購入で終わってしまう。これは客の体力に余裕がないためとみられる。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期が固定化しており、それに伴い売上も一定水準で安定して推移している。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年とほぼ変わらず、この3か月間をみても大きな変化がみられない。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・販売量の動きをみると、高額品と低価格品で分かれ、中間の価格帯の商材の売上が大きく落ち込んでいることから、顧客の二極化がさらに広がっている。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・10月は中国人を始めとした外国人観光客とハロウィンの催しによる効果で、例年並みの来街者数を見込んでいたが、外国人観光客については、当地周辺ではほとんど姿を見掛けなかった。また、ハロウィンも、ここ2～3年は10月下旬になると少しずつ来街者が増えてきていたが、今年は郊外の催しに足を運んでいるためか、来街者増加の兆候はみられなかった。
			一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・市内客、観光客ともに現政権の経済対策に対する期待感が薄れてきているためか、10月の売上は前年比94.2%、前々年比92.4%であった。また、買上客数、客単価ともに前年を8%程度下回った。物価高、マイナンバー制度導入など、客から不安材料の話聞くこともずいぶん多くなった。
			百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数に減少傾向がみられる。
			コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・大雨や雪といった天候要因の影響もあるが、来客数の減少が継続している。新商品などに対する客の反応はみられるが、全体売上にはなかなかつながらず、第1次産業の低迷の影響が感じられる。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き		・来客数が減っている。		
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き		・秋の増販期にもかかわらず、販売台数が予算の80%、前年実績の80%と悪くなっている。		
乗用車販売店（役員）	販売量の動き		・当地域の動向が一向に上向いてこない。今年になって前年を上回った月は1か月のみであり、新商品の投入も売上につながってこない。地場経済の低下と消費者マインドの落ち込みが多分に影響を与えている。		
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き		・ランチタイムは外国人と団体客で満席となる日が多く、2日連続で来店する客もみられた。しかし、10月後半に入ると、ディナータイムは閑散としてきた。全体の売上は前年比で横ばいであった。		
観光型ホテル（役員）	来客数の動き		・外国人観光客の団体需要は堅調に推移している一方で、国内客の予約が取りづらい状態となっている。最終的には、外国人観光客の団体需要のキャンセルが多くみられたことで、全体の宿泊客数が伸びなかった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・10月に入ってから雨の日が多く、洪水の被害もあったことから、農業関連での旅行需要の低下がみられる。また、一部地区でさけの漁獲が不振という声もあり、1次産業従事者の消費マインドの低下が懸念される。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夏休みも終わり、観光客が減少しつつある。一方、夜間の利用客は相変わらず少ない。3か月前と比較すると、利用客が約7.5%減少していることからやや悪くなっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・9月の市内の同業他社の売上をみても、全体的に需要が減少している様子がうかがえる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は特に天候が不順であったことから、フェリーの欠航回数が多く、輸送量が減少した。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・現政権の経済対策の浸透が地方まで及んでいない。特に不動産の価格がほとんど上昇してこないため、厳しい状況にある。
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・10月は台風が北海道を通過するなど、強風が吹き荒れたことが3度もあったため、来客数の減少がみられた。アイテム別にみると、コートやジャケットなどは、9月からニットコートが売れていることの影響もあり、前年の90%台となった。一方、物産催事については、ほぼ前年並みの売上であった。
			百貨店（販売促進担当）	来客数の動き
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夜間を中心に来客数が前年よりも悪くなっている。漁業関連の実績悪化が影響し、特に海岸部周辺の店舗での来客数が悪くなっている。
		コンビニ（オーナー） タクシー運転手	お客様の様子 販売量の動き	・外国人観光客は安定しているが、地元経済の動向が良くない。 ・観光需要が一段落して以降、一般客の需要は前年比で弱含みの推移となっている。
	企業動向関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている		-	-	-
(北海道)	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の変動が特にみられない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏を中心に高額商材が売れているなど、株高の効果が続いている。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事減少の影響もあるが、民間工事でもマンションや賃貸ビルの新築工事などの受注もあるため、全体としては大きな落ち込みとはなっていない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・農産物、医薬品、飲料品の道外への輸送は順調である。しかしながら、水産物の輸出は、さんま、さけが全体的に不漁のため、前年から落ち込み見通しである。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・鋼材類の輸送については、軒並み前年割れが続いている。特段、大きな案件が出てくる話も聞かれず、新規受注やスポット受注も決まっていない状況にある。
		金融業（企画担当）	それ以外	・外国人観光客の大幅増加が続いていることで、ホテル、観光バス、土産物の製造業者、販売業者は好調である。設備投資は、北海道新幹線の開業を控えた観光施設、医療福祉施設などの新增設が活発である。一方、公共投資は工事発注が減少していることもあり、足踏み感が強い。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物などの建築については、ちょうど工事完了時期に当たる期間ということもあり、多少活気がみられるが、全体的には伸び悩みの状況にある。
		司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しがみえてこない。当分、景気の上昇も下降もない状況が続くため、不動産の取引も減少している。また、横浜のマンションの施工データ改ざん問題の動向も気掛かりである。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・マイナンバー関連での出費など、予定外の支出があることで、企業の動向が慎重になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量や引き合い件数が低迷しており、景気が上向きにある状況とはとても言えない。
	やや悪くなっている	建設業（従業員）	取引先の様子	・設計業界では、前年に施行された耐震改修促進法によって特需となった耐震診断がほぼ終了しているが、強度不足建物の所有者は経済的理由から、補強工事に消極的である。また、新築建物の計画も少なく、全体的に業務量が不足している。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、土地の売買、建物の新築が少ない。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・第1四半期は前年並みの受注量をキープしていたが、第2四半期になり、前年割れの状態で推移している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前は大型案件があったため、売上は好調だったが、その反動で10月の売上は減少した。ただし、消耗資材の売上は微増している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・有効求人倍率が高くなったと実際にも感じるようになってきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者が68か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が47か月連続で前年を下回った。さらに新規高等学校卒業者の管内の求人数が前年から19.9%増加した。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・前々年の4月ごろから建設関連の求職者が減り始めていたが、ここに来て医療・介護、アパレルなどの販売関連の業種にも影響が及んでおり、人手不足感が深刻になりつつある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・若干、前年よりも求人件数が減少しているが、人材不足の建設や介護業界は求人件数を伸ばしている。外国人観光客の増加や秋のイベントなどの効果もあり、ホテル業界や小売など、個人消費関連の求人も増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・公共事業が前年割れを続けているなか、建設業の求人が前年よりも減少している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・7～9月の新規求職者数を前年と比較すると5.5%の減少となっている。有効求職者数も前年から9.9%の減少となっており、減少傾向に変化がみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いており、月間有効求人数は前年から3.9%増加し、2か月連続で前年を上回った。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上上位構成業種が、加工、製造、卸を除き、軒並みダウンしている。特に医療、飲食、環境衛生の落ち込みが大きい。前年比では7%程度の落ち込みとなった。
	悪くなっている	-	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良くなっている	タクシー運転手	お客様の様子	・乗客からは不景気な話を聞かない。建設会社の設計者などは、仕事はあるが職人が不足している状態であると話している。
		その他サービス業〔自動車整備業〕（経営者）	販売量の動き	・36か月連続で増収増益が続いている。
	やや良くなっている	一般小売店〔書籍〕（経営者）	単価の動き	・当地域ではプレミアム付商品券が流通しており、客単価が非常に上がってきている。また、その効果により定価品やギフト商材が動いている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比103%となっており、それに伴って売上も前年比104%である。今の状態のままであれば、景気は上向きである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・前月の落ち込みの反動からか、今月は来客数が大幅に増加している。一時的な落ち込み分はしっかりと埋め合わされており、前年比の数字も全体的に改善している。景気は緩やかな上昇基調を維持しているのではないかと。ただし、当店のすべての客層に活況がみられているわけではなく、まだら模様で改善しているように見受けられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・周辺の競合状況に変化はないが、全体的な来客数、売上共に増加傾向にある。また、客単価も上昇しており、価値ある良いものを買う傾向が見受けられている。反面、買上点数はさほど伸びていない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・客単価及び1品単価は多少落ち込んでいるが、来客数が増加した分だけ買上点数も増加しており、トータルとして売上は若干増加している。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・来客数の伸びに伴い、販売点数も伸びが良くなってきている。また、客単価に変化はないが、季節の変わり目でもあるため、生鮮食品を中心に商品の動きが良くなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・10月の来客数は前年比4ポイント増加、前月比でも3ポイント増加と改善しており、順調に推移している。カウンター商材である、コーヒー、ドーナツが大きく貢献している様子である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客はようやく冬支度を始めているようである。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・秋の訪れが早く気温も後押しをしてマーケットが早く動いているため、コートを含めた秋物商材が動いている。また、前年と比較しても来客数が違ってきており、秋口は順調に推移している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・客の動きが活発になり、来客数が上向きになっている。若干ではあるが客単価も向上してきている。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・今月は売上、来客数共に好調である。客の会話の内容からもそれほど悲観的な話は出ていないので、景気は良くなってきているのではないかと。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・繁忙期であり、来客数が前年同時期をわずかに上回っている。ただし、これは天候などによる影響であり、景気が上向いている実感はない。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・プレミアム付旅行券などの助成により、好調な状態を保っている。
		観光名所（職員）	単価の動き	・予約状況、来客数共に、前年並みもしくは数%の増加となっている。また、客単価も上昇しており、客の財布のひもが多少緩んできているような売れ方をしている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・様々な経済指標が出ている割には、地方や中小零細企業にはほとんど恩恵が行き渡っていないのが現状である。本当の意味での消費の回復には時間がかかっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天気に恵まれており、イベントの効果もあって来客数はまあまあである。ただし、食料関連の店舗においては商品の価格変動が落ち着かず伸び悩んでいる。また、身の回り品を扱っている業種においても、店によって差はあるものの好不況がまだら模様であり、今一つというところである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・消費者から商店街が見放されている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・期待した9月の大型連休も盛り上がり欠けており、お盆以降は消費者の節約志向が続いている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・前年同月と比較して、売上が若干増加している。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・寝具関係は、相変わらずニッチ商品の需要が少ない。また、利幅の大きいふとん製作やカーテンの受注量も、極めて少ない状態である。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・低価格商材の販売量は上向いているものの、高額商材は新型商品などがいないため、販売量が伸びていない。そのため、全体的な売上は変わらない状態である。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・これまで売上の構成比の多くを占めてきた中間顧客層の購買力に回復の兆しがみられない。来客数の落ち込みよりも単価の低下が顕著であり、中間顧客層が低価格にシフトしつつあることがうかがえる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税後の買い控えの反動による売上増加は落ち着いてきているが、今月も売上はほぼ前年並みで推移している。また、紳士服の好調も継続しており、低調が続いていた婦人服もニットに動きが出るなど回復の兆しがみられている。一方、催事における物産展の売上の低迷が続いている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・秋冬になってもアパレルの動きが良くない。
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・売り出しにおいても客は慎重であり、セール品でも納得がいくまで購入には至らない。一方で新作は順調に稼働しており、二極化が継続している。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・秋物から冬物防寒衣料の動きが出てきており、前年と比較しても動きに変化はない。ただし、来客数は微減しており客単価の上昇によって売上をカバーしている感がある。
		百貨店（経営者）	お客様の様子	・天候の安定と気温の低下とともに、シーズン物の衣料品は相応の動きがみられている。反面、全体的な来客数は減少傾向が続いており、購買動向に力強さはない。そのため、必要なものだけを購入するという流れに変化はない。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・惣菜の販売量は増加しており好調であるが、来客数は微減している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・10月の平均単価は前月並みである。来客数は前年を上回ったものの、買上点数の伸びが足りていない。また、地域格差も表れており、全体としては変わらない状態である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・商圏内に競合店がオープンした影響が出ている。ただし、地元イベントによる集客の効果が持続しており、全体としては変わらない状況である。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・前月の既存店の売上は前年比102%と前年を若干上回っている。しかし、内容としては買上点数及び客単価が上昇したことによるものであり、来客数は前年比100%とほぼ変わらない状態である。スーパーマーケットは競合店の出店が加速化するなか、既存店の改装、スクラップ&ビルドによって来客数を維持して売上を上げているのが実情であり、景気回復によるものではない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きに変化がない。上向き、下向きのどちらでもなく変わらない状況である。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・夏以降から売上、来客数共に安定している。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客の6割は価格の安い商品に手が伸びる傾向にある。残りの4割の客は徐々に質の高いものを買うようになってきているが、大半の客は価格で商品を選んでおり、二極化が拡大の傾向にある。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・冬季に向けて店内を一斉改装しており、各部門に提案型陳列を導入している。しかし、ある程度の反応はあるものの、前年と比較して販売量に大きな変化はみられていない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ニットやコートなど、例年であれば動き出すはずの防寒衣料の動きが非常に鈍い。客単価、販売量共に例年を下回っている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年より早くランドセルの受注があり、販売量も増加している。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・この1年半の間、3か月前及び前年同月と比較しても販売量は前年を下回っており、景気は全く変わっていない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年に比べて10～20%落ち込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売は消費税増税後の反動減が解消されつつあるが、中古車販売、整備入庫が減少傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・軽自動車業界は低迷している。また、他の販売会社においては、業績のばらつきが散見されている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・個人客の販売量が伸びていない。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・客からの受注品の納品状況をもみても、特段に良いというわけではなく、販売量はさほど変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・9～10月は地元農家の収穫期である。イベントなどにより一時的に来客はあったものの、飲食店の状況は芳しくない。また、店頭においては定番商品の動きがまずまずであるが、順調とは言い難い。
		その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・9～10月からの値上げにより前倒しで秋冬物の注文が入ったが、一時的なものであり、その後は静かになっている。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・消費量が大きい復興関連の軽油販売が順調であるが、灯油の消費が前年を下回ってきているため、相対的にみると横ばいで推移している。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量に大きな変動はない。また、変動する要因も見当たらない。
		一般レストラン （経営者）	単価の動き	・割引クーポンなどを発行すると来客数が増えるという状況は変わらずに続いており、景気は上向きでも下向きでもない。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・東日本大震災後の2年間は復興支援などにより多くの客が来てくれていたが、その後は客足が遠のいている。また、今は北陸ブームであり更に輪をかけて厳しい状況である。ただし、今月は我々の業界にとってトップシーズンである。企業などの大きな団体客は少ないものの、フルムーンなどの募集ツアー客が多くみられている。来客数は伸びないがほぼ満室状態となっており、館内にも多少の明るさがみえている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・繁忙期を迎えて週末は予想どおりに満館の状態が続いている。ただし、団体客が減少しており、その分を上昇した単価でカバーすることによってかろうじて売上を維持している。
		都市型ホテル （経営者）	単価の動き	・ホテル内レストランのリニューアルに伴い、主力商品の価格をやや値上げしている。単価の上昇を目指しているが、客は低価格帯の商品を選んでいるため、なかなか思惑どおりにはなっていない。
		都市型ホテル （スタッフ）	単価の動き	・個人利用、法人利用共にほぼ前年並みで推移しており、来月以降の予約も同様の状況である。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・東日本大震災復興関連が少なくなってきており、宿泊部門の稼働が若干落ちてきている。また、宴会部門も前年を下回っているが、レストラン部門はプラスとなっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・3か月前と同様に、個人旅行も団体旅行も前年並みに推移している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内の宿泊は前年並みとなっており、先行の受注状況もほぼ前年どおりで推移している。ただし、海外旅行については控えている様子がうかがえる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ほとんどの客が短距離の利用であり、メーターを確認して目的地直前で停車の指示がでる。このような状態がずっと続いている。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・各種物価の値上げは一段落したが、価格を上乘せしたものの他に、メーカーが予告無く容量を減らし外観上はそのまま価格を据え置くなど、どれもこれも実質上の値上げとなっている。一部の企業ではベースアップがあったようだが、全体的な底上げにはなっておらず、景気は横ばいである。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲について、前向きな印象がうかがえない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・首都圏のように高額商材が売れるような良い話はなく、コスト削減の要求が多い。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・三連休の雨や新水族館の新規オープンの影響はあったものの、来客数は前年を若干下回る程度で推移しており、単価も底堅い動きとなっている。
		競艇場（職員）	来客数の動き	・売上、来客数共に、3か月前と変わらない状況である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年並みに戻ってきている。しかし、売上は横ばいのみであり、良くも悪くもない状態である。
		美容室（経営者）	単価の動き	・新しいメニューや販売物に対して、客の財布のひもが固い。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
やや悪くなっている		美容室（経営者）	来客数の動き	・七五三の着付けで忙しくなる時期であるが、年々予約数が減ってきている。今は写真館で着付け込みの撮影が安くできるため、美容業界は押され気味である。	
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・仕事の話があっても、決まるまでに2～3か月かかるか、中止となる状況が続いており、なかなか景気が上向きにはなっていない。	
		その他住宅[リフォーム]（従業員）	来客数の動き	・塗装工事の進捗が良好である。受付件数も前年実績より増えている。	
			商店街（代表者）	来客数の動き	・前年と比較しても、買物需要が非常に少なくなっているように見受けられる。また、商店街の通行量はあまり変わらないものの、購入には至っていない。
			一般小売店[医薬品]（経営者）	単価の動き	・10月は季節的に非常に過ごしやすく病気になる方は少ない。また、風邪をひいても容量の小さいものや価格の安いものを購入するため、客単価が前年より8%ほど減少している。
			百貨店（総務担当）	販売量の動き	・10月下旬に入ってから、客の消費の動きが停滞している。来客数はそれほど変わらないが、販売量の動きがやや鈍くなってきている。
			コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店の新規出店があつたわけでもないのに、来客数が連続で前年比を下回っている。キャンペーンなどの販促活動は続けているが、効果はあまり出ていない。特に、サラリーマン中心のお昼のお弁当類の売上がかなり落ち込んでいる。
			コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は晴れて穏やかな日が多かったが、8～9月の天気の良い日と比べても客の動きにそれほどの変化はなく、今月も少し悪いような状況である。
			コンビニ（経営者）	単価の動き	・スピードくじなどの本部施策により来客数は増加しているものの、客単価は低下している。
			コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数の減少分をカバーできていないため、売上は減少している。人口減少だけにとどまらず、労働力の減少も相まって、全体的に消費が増える構造にはなっていない。
			コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・エリア内において競合チェーン店の出店が多く、来客数にも影響が出ている。
			コンビニ（店長）	競争相手の様子	・夏に比べて売上は減少している。また、競合店の影響も徐々に出てきているが、他の店舗の売上は順調に推移している。
			衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・秋物商材の立ち上がりがあった反面、10月に入ってから気温上昇により冬物商材のニーズが減少しており、苦戦している。
			衣料品専門店（店長）	単価の動き	・お買い得な商品を購入する客が、前年から徐々に増えてきている。
			乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売台数は前年比70%、前々年比60%となっている。
			乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・土～日曜日の来客数がかなり減っている。
			乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・通常であれば買換えを検討するような高額修理でも、買換えではなく修理を選ぶ客が多い。商談自体が少なく、新規来客数は前年比70%と閑散としている。
			住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は復興住宅への入居者がたびたび来店しているが、多くの客は消費意欲に乏しく、最小限の買物をする傾向にある。
			住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、買上点数共に減少している。
			その他専門店[酒]（経営者）	販売量の動き	・今月はアルコール類の販売量が伸びていない。飲食店の話では、主な移動手段が車という地域柄、飲み会などには出るものの代行やタクシーの出費までの余裕がないのか、ノンアルコール飲料を飲む客が多いと聞いている。実際にノンアルコール類の販売量は良いものの、単価の高いアルコール類が伸びなければ状況は厳しい。
その他専門店[靴]（従業員）	販売量の動き	・行楽シーズンで各地のイベントに足を運んでいるのか、来客数が減少している。			
高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・市場に仕入れに行っても本マグロが売れていない。本マグロを扱える店はある程度高級な寿司屋や料理屋に限られているため、景気が良くないということがうかがえる。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休も今一つであったが、連休の後ということもあって10月もかなり低調な雰囲気である。ランチタイムやディナータイムの来客数も減少しており、大変厳しい状況が続いている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気が良くなっていないので、来客数の動きにもむらがある。多い時と少ない時の差が激しく、全体的に客の数が少ないように見受けられる。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・米と果樹の収穫期が重なっており、農業従事者の多い当エリアでは外食をする時間が取れないのか、特に夜の人の流れが鈍くなっている。景気が良ければ仕出し弁当などの注文があるが、それもあまり無く、余裕の無い人が多いようである。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・計画通りに推移している。ただし、前年は大きなイベントが複数あったが、今年は小さなイベントばかりのため、宿泊が絡むなどのホテルの収入に結びつくようなものは少ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・春先から上向き傾向が続いていたが、前月から徐々に下降してきている。今まで販売量は前年を上回っていたが、今月は下降幅が更に大きくなったため、前年を下回っている。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・復興特需に陰りがみえ始めている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の乗り控えがますます目立ってきている。
		通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・中国経済は減速傾向にあり、米国の大手金融機関の破たんの経験を踏まえて設備投資を控えている企業が増えている。また、安い賃金体系が問題であるのか製造業の人手不足が続いている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・映像関係の新規契約者数が大幅に減少している。一時期横ばいであった解約者数も再び増加傾向にあり、通信関連も解約者が増え始めている。新規契約者数のみは微増であるが、全体的に落ち込みが続いている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・体育の日の3連休が天候に恵まれず、前年と比較してもかなり悪い状況になっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・受注までに時間を要しており、計画数値を下回っている。そのため、受注量に伸びがみられていない。
		悪くなっている		百貨店（売場担当）
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き			・とにかく来客数が少ない状況であり、買い控えも多くみられている。
企業 動向 関連 (東北)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・今年のももは天候に恵まれ品質が良かったので、一週間ほど早く出荷することができている。そのため、収入が前年の2割程度増加している。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は売上が前年比で5%ほど下回っていたが、今月は前年比で10%の伸びを示している。
	変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・相変わらず米価は低調である。ただし、転作した玄蕎麦は大産地の北海道で不作だったこともあり、価格が上昇している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は9月の大型連休のようなイベントが特にないため、来客数は前年同様の動きをしている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・主力商品の販売量減少が継続している。新商品発売により減少分のカバーを図るも、販売状況は芳しくない。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・毎月のことであるが、店頭での売行きが良くない状態が続いている。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の価格低迷により、収益性が悪い状態が続いている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は、同業者は皆動きが悪い様子である。
		土石製品製造販売（従業員）	取引先の様子	・取引先の話聞いても、休日出勤でも代休扱いになったり、残業代も時間制限があったりと厳しい状況から抜け出せていないようである。
一般機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・依然として受注量の改善がみられず、横ばい状態が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・多くの取引先は順調に受注が入っている様子である。		
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体価格の低下が業績に直接影響を与えている。ただし、給与に対してはまだその影響を受けていないため、今のところ状況に変化はない。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・降雪前という季節的なこともあるが、民間の小口工事が増加している。		
		建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量に多少の減少傾向があるものの、価格は落ち着いた状況が続いている。		
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・全体的な物量は悪くない。しかし、一部の荷主からは料金改定の要請を受けている。		
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客のなかには同業他社へ乗り換えるケースも出てきており、予断を許さない状況である。		
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・投資よりも経費削減が進んでいる。		
		金融業（営業担当）	競争相手の様子	・中国の景気減速懸念からの株価の落ち込みにより、投資信託の動きが鈍い。		
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・原油安の好影響を受けている運送業者はいるが、全体に波及しているわけではないため、あまり業績に変化がみられていない。		
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・広告物とのセットでの受注が少なくなってきた。分離発注の傾向が明確化しており、その分売上が減少している。		
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年の落ち込みからはやや持ち直している感があるが、一昨年並みにまでは届いていない。また、3か月前と比較しても、大きな動きはみられていない。		
		公認会計士	取引先の様子	・建設関係は利益を計上している会社が多い。小売関係は相変わらず売上の前年比が減少しており、利益が減少傾向の会社が多い。3か月前と比べても大きな変化はない。		
		その他非製造業 〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・特売商品や他より安い商品などの販売量はすこぶる良いが、通常の定番商品は値上げが多いせいか、なかなか動きが鈍い状況である。		
		やや悪くなっている		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は確実に下降しており、受注量に影響している。
				建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・官庁からの復興関連工事の発注が進んでいない。
広告業協会（役員）	それ以外			・地元の広告業界は中央の悪化と比べてそれほど悪くはなっていない。ただし、流通業界が苦戦しており、今後の引き合いが少なくなってきた。また、地下鉄の新路線開業に伴うオープニング広告も、予定の8割程度の集稿となっている。		
経営コンサルタント	取引先の様子			・製造業の2次下請において、コストダウンの要請が厳しくなってきた。		
その他非製造業 〔飲食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子			・景況感が出やすい飲食店の状況が上向いていない。消費者の選択する目が厳しくなっており、めりはりのある消費傾向がなお一層強まっている。		
その他企業〔企画業〕（経営者）	受注量や販売量の動き			・広告宣伝関連の媒体が大幅にネットに移行しつつあるため、当社が得意としてきた印刷物の企画が激減している。当社ではネット媒体の企画も可能であるが、企画と制作の一括発注となるため受注が難しい状態である。		
悪くなっている						
雇用関連 (東北)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-		
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・世の中が復興に向けて動き始めている。		
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・平成27年9月の新規求人数は依然として好調を維持している。新規求人倍率は2.26倍と今年度3度目の2倍台となり、好調である。9～10月にかけても、求人は出しているが応募者がほとんどこないという人手不足の状況が続いている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較して、新規求職者数、有効求職者数は微減し、新規求人数並びに月間有効求人数は微増している。また、有効求人倍率はこの1年の間0.9台後半～1.1台で推移しており、雇用が落ち着いているという状況に大きな変化はないものの、求職者数の減少に比べて求人数の増加が目立っていることに、3か月前と比較して明るい印象を受ける。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・2016年3月卒業生に向けて採用活動をしている企業の動きに着目している。例年であればこの時期に採用数に満たない場合は、採用活動を終了して中途採用や来年の採用に切替えるのだが、今年は新卒採用活動を継続している企業が多い。特に外食産業、塾、建築土木業、小売業の企業はまだ採用活動を継続している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・人材派遣業においては、新規登録者の伸び悩みもあり、景気が上向きになっていないといえない。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・採用困難を理由として、閉店、撤退、業務拡大の抑制の判断に至る企業が散見されており、景気に悪影響を与えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・小売業、サービス業において人手不足感はあるものの、積極的に採用するには至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・復興需要や定年退職者の増加などを背景に人手不足である企業は多いが、求人側と求職側のミスマッチが生じている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較して新規求人数が増加しているが、その増加率はここ3か月間で毎月減少している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人状況に変化はない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・6月や8月の新規求職者数は前年と同程度であったが、それ以外の月では減少している。また、全体の4割を在職中求職者が占めている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は増加している。しかし、有効求人数は、前年と比較しても3か月間連続で小幅ながら減少している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・製造業から求人が出ているが、非正規社員の求人が多い。反面、派遣会社には人が集まらず苦勞している。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・新規登録者数が減少傾向にあり、改正派遣法の迷走で受注量も鈍化している。結果として損益分岐が上昇し、9月の単月決算は8月に連続して赤字となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新3本の矢を含めて景気浮揚策が公言されているが、首都圏からの地方への金の流れが鈍いのが現実であり、地方創生政策が有効に働いていない状態である。そのため、地方においてはその実効性を上げていくことが求められている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求職者数は、事業主都合離職者の減少により引き続き減少している。ただし、有効求人数が労働者派遣業などの求人減少により減少幅が大きくなっているため、有効求人倍率は4か月連続で減少となっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の製造関係事業所から、中国経済の減退により受注量が減少しているという話を聞いている。また、介護事業所や福祉サービス事業所からは事業縮小の相談を受けている。
	悪くなっている	-	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北関東)	良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地限定ではあるが、来年の大河ドラマ放映に向けて、話題の盛り上がりとともに、関連商品も充実してきており、とにかく忙しい。
		衣料品専門店（統括）	単価の動き	・今年はお祭りに向けて、企業参加が多かったようである。その結果、販売商品が大量に出ている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・当店の売上は一向に上がらないが、商店街の、特に飲食店では来客数が少し増えているようである。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・客の商品購入が、少し積極的に感じられる。特に、テレビや白物家電について動きがみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・販売量というよりも販売額が、ほぼ前年並みである。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・9月の売上は前年比100%だったが、今月は108%と好調である。来客数も前年比で伸びている。衣住食すべてで、数値は好調である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣の工事関係の客が増えている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・数か月ぶりに販売台数が平月に戻っている。理由としては、今まで売れていなかった分が売れたこと、消費税増税を多少意識して、前倒しでの購買があり、車両販売は良くなっている。ただし、修理や一般販売はあまり伸びていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月は同規模の他のホテルが、リニューアルで休館している。そのため、客が当ホテルに流れてきており、前年と比べると良くなっている。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・安定した天候に恵まれ、順調に観光客の足も向いている。ただし、懸念されるのは紅葉の進みの早さである。例年よりも7～10日程度早く進んでおり、シーズンが短期間で収束してしまうのではないかと。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比較すると販売量が増加している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・北陸新幹線を利用し、日帰り行程を組むことができるようになったために、今までにない来客の動きがある。当地は沿線ではなく駅からも離れているにもかかわらず、北陸新幹線延伸開業の影響が出ている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・料金を載せた広告を新聞に出すと、問い合わせや来客が増える。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は特別変わったことはない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月はスポーツとお祭りの季節である。伝統あるお祭りの他に、当地では、特区という制度を設けて、町を元気にしようとする有志によるイベントが始まっている。客が参加してくれれば成功だが、なかなか難しいが、少しずつ浸透してきている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・相変わらず商品の動きは悪く、展示会などの案内を出しても客の反応は鈍い。客も必要品の購入のみで、売手側の施策にはなかなか乗ってこない。季節商材の動きも今一つである。
		一般小売店〔青果〕（店長）	来客数の動き	・日々感じるのだが、本当に固定客がほとんどで、昔のように流れ客などはいない。ただ、足りない物を買いに来る流れ客はいる。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年同期は前半2週の週末に台風の影響を受け、大きく売上を落としたが、今年は天候に左右されることがなく、順調に売上が伸びている。ただし、3週目から売上は停滞気味であり、月全体で見ると3か月前と変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・主力商材である婦人服の売上不振が目立つ。タンス在庫にない一部の新しい提案商材については動きが見られるものの、防寒衣料の動きが鈍く不振の原因となっている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・シニア層の客が減ってきている。
		百貨店（副店長）	販売量の動き	・特選ブランド催事では、前年比で2倍の売上を上げている。一方で、日々の商売は上向きになっても長続きせず、売上はジェットコースターのように乱高下している。富裕層以外は節約志向が強まり、格差がますます広がっているように感じる。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・1品単価は上がっているが、来客数の減少が気になる。
		スーパー（統括）	単価の動き	・天候に恵まれ、来客数は8.9%、店単価も3.6%の増加となったが、1人当たりの買上点数はマイナス4.1%、客単価もマイナス1.3%と低下している。安さより品質を重視する人も増えているが、大多数は生活防衛意識がより顕著になりつつある。
スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みで推移しているが、買上点数や客単価にも大きな変動はない。		
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・たばこや飲み物などの単品買いが目立っている。		
コンビニ（店長）	お客様の様子	・前年同月は工事関係が大分あり良かったが、今年はそうした工事は少なく、あまり良くない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・こしばらく、客の動きが本当に悪い。前月よりは若干、波が出たかなというくらいではあるものの、客の動きと雰囲気を見ると、自分の生活を支えることで精一杯かなという感じで、悪い状態が続いている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車の販売は、軽自動車、普通車共に依然低迷している。新型車が登場しても、起爆剤にはなっていない。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・4月以降、軽自動車の届出車販売は、前年割れが続いており回復傾向が見られない。
		乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・自動車販売だが、サービス、修理を含めて来客数が少なく、販売量が悪い。イベントを開催しても何をどうあがいても、全く販売量は増えず、整備も増えない。不安である。これで、消費税が10%が上がったらより一層不景気になるのではないか。
		乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・前月下旬から今月にかけて、当地の観光地の紅葉は、最高の見ごろとなっている。かなりの数の観光客が押し寄せてきており、取引先の店なども潤っている。9月末～10月にかけては皆、景気の良い話をしているが、3か月前と比べてみると、景気が良いのは今の紅葉時期だけではないか。急激に良いとは思えないが、観光客はたくさん来ており、景気はよく見える。
		乗用車販売店 (管理担当)	単価の動き	・食品衣類等の必需品は消費するが、無駄遣いはしない傾向である。一部の大手製造業は賞与も前年を超える支給傾向にあるが、中小企業は非常に厳しい状況である。経済効果にあまり実感がなく、消費は低迷している。
		住関連専門店 (経営者)	それ以外	・商品により、原価の引き下げ、引き上げが混在しており、全体的に値上げ色が強くなってきている。売価は連動してやや値上げとなり、一品単価は上昇しているが、客単価は上昇しているとは言いがたい。地域経済において、景気の底上げ感を感じるには至らない。
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・売上全体はあまり変わらないものの、高額品の販売が、やや落ちているように感じる。
		住関連専門店 (仕入担当)	単価の動き	・10月は好天に恵まれ、月次で見ると売上高は順調に推移している。ただし、前年に台風が連続して上陸したため、相当数来客数を落とした分の上積みであり、購買単価や買上点数にはあまり変化が見られない。
		その他専門店 [燃料] (従業員)	販売量の動き	・10月に入り、一段と朝夕は冷え込み、燃料使用量も増加してきている。
		一般レストラン (経営者)	単価の動き	・プレミアム付商品券効果なのか、高単価メニューの注文が多い。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・ランチの来客数が減っている。また、ディナー客も依然として来客数は伸びていない。来客数の動きからみても少し良くない。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・レストラン部門の売上は前年同期を若干ながら上回っている。年末の宴会予約も前年並みに入ってきているが、活況を呈するというほどではなく、勢いはない。
		スナック (経営者)	お客様の様子	・当店は小さな店であり、大手チェーンの店が多すぎて、客がそちらの方に動いているのではないかと心配である。
		観光型旅館 (経営者)	販売量の動き	・前年秋と比較して売上が若干良い。当県のふるさと旅行券の影響があるようである。
		都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・10月は3月、8月と並んでホテルの最盛期となるが、ほぼ例年並みの数字で推移してきている。インパウンドは大分落ち着きつつあるものの、その一方で、個人客の単価が持ち直してきている。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・原油価格は下がってきているが、消費には結び付いていないように感じる。
		旅行代理店 (副支店長)	お客様の様子	・行楽シーズンに入り、3か月前と比べると受注は多い。ただし、前年と比べると横ばいである。客の動向をみると、旅行をする個人客は若干増加傾向にある。要因としては、北陸新幹線延伸開業の効果といえる。
		タクシー運転手 タクシー (経営者)	販売量の動き お客様の様子	・運行回数はやや増えているが、単価が落ちている。 ・夜の動きは良くなかったものの、昼の動きが少し良く、前年同月と比べて、4%の増収である。
		通信会社 (経営者)	お客様の様子	・高齢者の解約が徐々に増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・8～9月の連休も落ち着き、この時期はかなり消費を抑える傾向にある。	
		遊園地（職員）	来客数の動き	・単純な来客数の増加は見られるが、3か月前と比べて、大きな変化はない。	
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・9月の天候不順を取り返した10月は、大幅な来客数の増加があったが、前年に比べて、単価の減少はいまだに続いている。	
		ゴルフ場（総務部長）	来客数の動き	・11月の予約状況は前年同期をやや下回っている。	
		競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価共に、それほど変化が見られない。	
		その他サービス [立体駐車場] (従業員)	販売量の動き	・来客数は横ばいである。また、単価等も相対的に横ばいになる。	
		その他サービス [イベント企画] (職員)	お客様の様子	・大規模イベントでは、企業支援は不可欠であるものの、現状維持が精一杯である。	
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・引き続き仕事の依頼は低調で、特に公共工事は少ない。	
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・3か月前と比べても変化は見られない。平日はもちろん土日でも来客数が大幅に減少している。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客の動きは相変わらず良くない。マンション問題が発生し、不動産について慎重になっている。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近土地の動き、貸店舗等の動きがほとんどなく、問い合わせも大変少なくなっている。景気が良いのか悪いのかわからない。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・通りに夜間営業の飲食店も増えているが、日中でも人通りはほとんどなく、中心街の名が恥ずかしいような状況が続いている。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・最近、夕方の来客数が激減している。特に土日は顕著である。単価を上げられるものは修正し、前年の売上は確保している。
	スーパー（副店長）		来客数の動き	・近隣で、大規模道路工事が2か所で始まり、来客数に影響が出ている。年内に終了する工事と来年までかかるものがあり、苦戦が予想される。	
	コンビニ（経営者）		来客数の動き	・たばこやコーヒーなどを朝、購入する単品買いの客が、減っている。	
	コンビニ（経営者）		来客数の動き	・3か月前は夏休みもあり、来客数が多く、イベントも多かったため、客の様子が活発であったためである。	
	コンビニ（経営者）		来客数の動き	・当店の売上、来客数、客単価が前年より悪くなっている。	
	家電量販店（店長）		販売量の動き	・地上デジタル放送のデジアナ変換終了特需の影響が続いているテレビは、4Kテレビがけん引役となり、前年比で2けたの伸びとなっている。しかし売上構成比の大きい冷蔵庫が伸び悩み、心配である。全体の金額では前年に比べ、数パーセントの上乗せで着地となりそうである。	
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・折込チラシやダイレクトメールで宣伝活動をしてても反応が少ない。今までにこんなことはなかった。法人、個人を問わず購買意欲が乏しい。お金をかけた展示会を開催し、販売増につなげたい。		
	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・材料費や経費はどんどん上がっているが、飲食にかける消費者の予算はより一層、シビアになってきている。		
スナック（経営者）	来客数の動き	・例年だと割と良い時期だが、今年は宴会の予約があまり多くない。通行量も、めっきり少なくフリー客も伸びない。			
タクシー運転手	お客様の様子	・従来、駅までタクシーを利用していた人が、自転車に乗換えたり、駅近くの駐車場を借りたりと、タクシー利用者がますます減少している。地方では、一人1台の割合で自家用車を持っており、帰路も飲酒せずに帰っている。			
タクシー（役員）	販売量の動き	・前年同月と比べ、下がっている。			
通信会社（社員）	お客様の様子	・購入目的での来客数が減っている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・取引先営業と話をしたが、最近は繁盛店の話あまり聞かないとのことである。10月は天気の良い日が続いているにもかかわらず、入出があまりなく、売上、単価共に、漸減している。
		その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・車検整備、車体整備、板金塗装の注文で、必要最小限を望む客が増加している。そのまま放置し使用すれば、後で修理費用がかさむと理解していても、現在の経済状況では我慢し、また、愛車の美観上、かなり問題がある状態でも同じ理由で我慢している。
		設計事務所（所長）	それ以外	・大手サッシメーカーの営業の話では、かつてないほど受注が落ちている。また、当地ゼネコンの話では以前と状況が変わり仕事の争奪が厳しい、と話している。
	悪くなっている	一般小売店〔衣料〕（経営者）	来客数の動き	・当地の山奥の紅葉はぼつぼつ終わったが、当店の周りの紅葉は見ごろであり、客はよく来ている。ただし、買物については、あまり買わないため困っている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・相変わらず地方の不景気に歯止めはかからない。本来なら今月から、年末に向けて広報ラッシュのはずだが、そんなものは微塵もない。
企業動向 関連 (北関東)	良くなっている	その他製造業 〔環境機器〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月は環境装置の納品で通常の2.5倍の売上となっている。今月は決算月で、前年決算より売上で1.31倍の46,000万、減価償却で1.49倍の9,300万、利益予想で約2,000万となる見込みである。当社2番目の太陽光発電所、約14,000万を一括償却予定のため赤字になる。
		やや良くなっている	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主力製品の出荷低迷から少し上向いてきている。また主力製品以外の出荷も3か月前と比べ、増えている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・この2～3か月は、取引先の様子、受注量、販売量の動き等、いろいろ忙しいところ、暇なところがある。当社はまずまずの良い状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の輸出が増加している。
		その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・一部小売店の業況は上向いてきているが、全体的には低迷が続いている。東京で開催された国際展示会も中国の景気動向の影響で来場者数、売上共に減少している。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・最近になり発注、受注共に急増してきている。現場も手一杯になっている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・中国の景気減速懸念から、外国人観光客の減少が予想されたものの影響はなく、増加傾向である。
	変わらない	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・数量は前年と比べ、ほぼ変わらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・例年の季節商材受注対応はあるが、他はあまりない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・多少、動きがみられるようになってきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・パワーショベル関連の仕事が低迷し、他の産業分野の仕事でマイナス分を補いきれない状況である。また、全体的に数量のまとまった仕事が減ってきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・どうも景気が回復しているとは思えない。現状、受注量もあまり変わらず、どうにもならない。ある部門では、手が空いて仕事が全くなく、近年にない厳しい状況になっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同時期に比べ、ほとんど変わらないが、安定した仕事がなく、短期納品が多い。営業活動を常に行わないと、仕事はなくなる。
輸送業（営業担当）		取引先の様子	・10月に入り、パーベキュー、レジャー用品等の行楽用品と冬物家電等の商材が、例年並みには動いている。特に好材料はないが、燃料価格が少し下がっている。	



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・市場にバイがない中での競争により、非常に厳しい単価となっている。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・取引先から業務発注の打診は増えているものの、当社が受注しても利益は出ないため、ほとんど断っている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・小売店の出店などが重なり、今月のチラシ出稿量は112.7%と今年最高の伸び率となっている。一方で、地元日刊紙の紙面広告では、首都圏からのもの、地元のもの共に減少していて前年割れとなっていると聞いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・どの業界でも内部的に業績格差はあるものの、総体的に可もなく不可もない通常の経営サイクルに入っている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・想定範囲内なのだろうが、売上が厳しくなってきた、と話す中小事業所が増えてきているようである。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月は、上半期末で一時的に増加したが、それ以外に、特段の変化は見られない。
	やや悪くなっている	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・現政権のもと公共工事は2年連続発注増であったが、最近では前年比10%減と急速に落ち込んでいる。当社も前年比6%の受注減と、不安材料である。10年以上続いた建設業不況がこの2年で、何とか上向ってきたものの、今後が心配である。ただ言えることは前政権の建設業政策に比べ、現政権は有り難い。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・中国経済減速の不透明感が増し、製造業では業況感が低下している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・条件が合わず、契約が更新できない物件も出ている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末商戦への宣伝広告の立案、検討時期に入っているためか、企業の広告アクションが前年より10%程度、一気に減っている。
悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注が非常に不安定である。当社取引先は市場動向の見極めに苦労しているようである。	
雇用関連 (北関東)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が上向いている。正社員求人も増えてきている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・自動車関連、電機、製造業等における求人内容は、ひとまず落ち着いている。住宅関連の着工は、伸び悩んでいるようだが、土木建築等の動きは見られた。さらに食料品等の生鮮食品は少し高値だが、購買力はあったように見受けられる。ただし、秋冬物については、まだ出足が鈍いようである。
		人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・各業種共に夏と同様の求職者数である。良くなっている状況ではないが、悪くもなっていない。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・ボーナスの検討時期でもあるが、業績が悪く、打つ手がないため。来季以降も含めて人員削減を考えている企業がある。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・10月の受注が前年比で120%を超えるなど、好調を維持している。
		求人情報誌制作会社（経営者）	周辺企業の様子	・求人紙に掲載する企業は、3か月前より多少増えている。ただ、周辺企業全体をみると景気は低迷しており、正社員の募集は少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・建設業、製造業、卸・小売業、福祉、サービス業等、管内の主力産業で前年同月と比べて、新規求人が増加しており、依然として人手不足の傾向は続いている。そのうち派遣求人の占める割合が引き続き増加している。一方で、小規模ではあるものの人員整理の情報や、大手電子機器企業より一時帰休による助成金の相談が寄せられるなど、一部には不安な要素もある。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をつけん引する製造業では、扱う製品により企業間格差が広がり、リストラを始めた大手企業の一部門、忙しく求人が増える自動車及び医療関連企業と、様々な様相を呈している。
		やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規の求人、求職者数及び有効求人、求職者数が減少傾向の中、就職者数は220件前後で推移していたが、今月は190件と半年ぶりに200件を下回る結果となっている。このことから、企業では業務量増加による積極的な採用が行われなかったとみている。
	悪く なっている			

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (南関東)	良く なっている	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・今年は周期の行事があり、来客数が多い。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・好天に恵まれたことと、セールやテレビコマースを通じた商品の販売促進が奏功し、販売量は前年よりも好調に推移している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・昨年は残暑が長引いて秋が短かったが、今年は秋の期間が十分にあることも好調の一要因と考えている。プレミアム付商品券の影響はプラスとしてあるものの、薄れている。全般的に専門店の売上が好調で、改装店舗は確実に売上を積んでいる。業種としては、映画が前年比2割増、飲食、ファミリー衣料、雑貨、身の回り品が同1割増の増加、婦人服は前年並みに戻っている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・これから秋を迎えてピークとなる。10月は天候に恵まれ、前年よりかなり良い実績を確保している。来月もトップシーズンを迎えるため、これから良くなる。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・なかなか契約に至らなかった案件が締結できたため、良くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標の約170%と数字上の景気は良いが、前月からの販売量のずれ込みなどを考慮し、景気はやや良いと判断している。また、3か月前と比べ、明らかに景気は良くなっている。展示場への来場数や問い合わせも増えてきている。
	やや良く なっている	一般小売店〔印章〕（経営者）	単価の動き	・当地域ではプレミアムが3割付いたプレミアム付商品券が出ており、商品券で買物に来る客がちらほらみられる。割と反響はあるが一過性のため、売上増を見込んで良いのか迷っている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・客単価及び販売点数が増加傾向にある。また、近隣のイベント開催により来街者が増えたため、当店への来客数の増加につながっている。店内に入った客が、商品を購入する比率が高まってきている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・店頭においては、何か月も来客数が順調に上がっている。外商があまり良くなかったが、今月から大口物件が徐々に決まるようになってきている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・大口の需要が入り、売上が上がっている。来客数も微増している。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・アパレル関連の動きが良く、前年比6%増、食料品も同2%増と堅調である。また、中国の国慶節によるインバウンドの影響もあり、全般的に売上高を大きく伸ばしている。国慶節の期間は売上高4割、来客数は7割強の増加である。百万円を超える金額は減少しており、売上増の要因は客数増によるものである。一方、国内客では販売点数が減少しているものの、購買単価の上昇がプラス要因であり、国内外の傾向は二極化している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人衣料の秋冬商戦については前年になかったコーディガン、ガウチョなどのトレンドが出ており、たんす在庫にないこともあって売れている。ただし、気温の低下に従って衣料が売れてしまったため、雑貨は後回しになっているのか、売上が苦戦傾向にある。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・今月は天候が安定していたことに加えて、気温が下がったことから秋冬物の衣料、雑貨の動きが良くなってきている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・きちんと手を入れた物、気持ちを込めて販売する物は売れる。やればやっただけの反応があるから良くなっていった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・今月は気温が下がったため、衣料品を中心に売上が好調に推移している。また、青果物の相場が高いこともあって、単価が上がり、売上が良くなっている。ただし、メインである米などの乾物については単価が下がっており、今後の見通しが分からない状況である。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・客の買物頻度は変わらず、来客数は伸びていないものの、値上げによる1品単価、客単価が上がっており、売上は前年度を2%上回っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・経営している主要な3店舗の平均値が売上で約2～3%増えているので、やや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・本部の政策に客の反応が良く、前年比で来客数が105%、単価は100%だが、売上に結び付いている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気温も天気も良く、久しぶりに来客数が2けた増となっており、プレミアム付商品券の効果を少々感じる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べ、まとめ買いや旅行のために購入する客が多くなってきている。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・気温の低下もあるが、クールビズ中においても秋物の需要が非常に高まっており、来客数の増加につながっている。
		衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・今月は気温が定まらず、前半良かった売上也伸び悩み、前年比96%と前年までとわずかである。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備と販売をしているが、今月は整備、販売共に順調であり、このままいってくれば良いと期待している。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車の販売台数は伸び悩んでいるものの、新型車の発表やモデルチェンジがあったりで、客へのアプローチができて販売拡大が進んでいる。
		乗用車販売店（販売担当）	競争相手の様子	・新車トラックについては前年並みを維持しているが、中古車は需要が少し減ってきていると各業界でいわれている。ただし、輸出関係が一時的にストップしたためで上含みといわれているので、年末にかけては景気が向上して中古トラック、新車トラックの需要が若干増えていく。
		その他飲食[居酒屋]（経営者）	来客数の動き	・年末に向けて忘年会の問い合わせ、予約数が増えている。また、通信販売を始めた高単価商品も予想より売れており、景気が良くなっていると感じている。
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・今までは単価が中の下ぐらいだったが、今月に入ってからの中の上ぐらいにはなってきているので、客の財布のひもが緩んできている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・10月上旬は問い合わせの電話の嵐で、処理しきれないほどであった。国内団体旅行の見積も1日に50件近くある。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・新商品の申込が好調である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ここ数か月、昼間の利用が良く、これは暮れまで続くともみている。夜の利用は少ないが、11月半ばを過ぎれば早めの忘年会などで活気が戻ってくると期待したい。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	来客数の動き	・ここへきて急に市場の動きが活発化してきたと感じる。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前も大分景気が上がってきていたが、更に良くなってきている。アパートの販売が好調で在庫が不足してきている。仕入ができれば販売も並行して好調に推移していく。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・良くなっているのか、実感がまだつかめない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・最近の景気は良いとはいえない。近隣に大型店ができたため、大変影響している。これからは大型店の出店等、様々なことを考えていかななくてはならない。
		商店街（代表者）	それ以外	・世の中が若干下り気味の傾向にあるなか、当地域ではクレジットカードの取扱高や、イベントでの人出は前年同月の数字を維持している。インバウンドも当地域は団体旅行客を対象としていないので、さほど大きな変化はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街を取り巻く環境はいまだ厳しい。しかしながら、自助努力の過程なのか、旧態依然とした土地付き地主の店舗が廃業し、時代に即した店子が出店し、ここではにぎわいを取り戻そうとしている。客が買いたい物のある商店街に再生していかなければならないと実感している。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	お客様の様子	・週末の秋の祭りや学校行事などの注文が前年に比べて多く入ったため、売上は少し伸びたが、通常の来店客はあまり増えておらず、売上にはそれほどつながっていない。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	販売量の動き	・前月、近隣に大手家具店がオープンしたため大分影響すると思っていたが、あまり影響がなさそうである。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	単価の動き	・単価は相変わらず、廉価な物と少し高価なものに分かれており、総じて変わらない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・気温が段々下がってくると同時に衣料品が少しずつ動いているが、まだ本格的な動きにはなっていない。一方、来客数も前年に比べてやや減少というなかで、全体の購買動向は相変わらず不透明であり、明るい兆しがまだみられない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・インバウンド、富裕層の購買は少しずつではあるが前年より増加している。一方、一般の消費は依然厳しく、二極化は更に顕在化している。金額としては微増となっているが、全体的に改善しているとは言い切れない。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・売上は前年を大きく上回っているものの、訪日外国人による免税売上の伸びによるところが大きく、それを除くと前年ととんとんが良いところである。地域によっては前年を割ってしまっている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・絵画販売会で高価格の商材にも動きがある反面、全体では客単価の落ち込みがみられる。消費に対して慎重な客の方が多い。
		百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・店内ショップの入替えがあり、新しく入ったショップが好調に推移し、久しぶりに前年をクリアしている。新しい物が提示されることにより、消費を喚起することができることを実感している。景気が悪いのではなく、特別欲しい物がないから買わないようなので、需要は喚起できる余地がある。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・富裕層の客の消費は継続して堅調である。海外旅行者の伸びはこれまでほどではないものの、消耗品が免税対象になった前年の伸び率が特別なものとしてとらえれば、想定範囲内である。
		百貨店（副店長）	お客様の様子	・10月は比較的天候にも恵まれ、前年を上回る売上で推移している。物産展などの催事が好調であったが、プレミアム付商品券との連動効果などもあり、実質的に景気が上向いているとの実感は充分にはない。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子をみていると、店ごとの特典のある日、何曜日ポイント何倍、タイムセールスの売出しなどの特典を、うまく利用しながら買い回っている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は減少しているものの単価が上昇しており、相殺して何とか売上を維持しているが、やはり厳しい状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・値上げの影響もあり単価は上昇しているものの全体的な物量は増えておらず、必要最低限の買物で済ませているように感じる。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・世界的にも国内的にも為替相場や株の相場が安定してきたことに加え、短期的に行っているプレミアム付商品券の効果も若干あり、今のところ好調である。
		スーパー（仕入担当）	それ以外	・日中の気温が高いことと野菜の相場が高いため、鍋材料の動きが鈍い。1品単価は上昇傾向にあるが、買上点数が減っているため、売上増につながっていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が若干減少している。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・プレミアム商品やコーヒーの売上は順調だが、ナショナルブランドの一般商品は、食品スーパーの連日の特売で大幅にダウンしている。客の店舗や業態の使い分けが顕著に表れてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・当店では約2年前からデイリー食品の見切り販売を始めている。この時間内にどうしても売ってしまいたいような物を値段を下げて客に提供しているため、客単価は若干下がっているが、来客数が増えている。この傾向は今後も続く。客に対してある程度アピールして経営していけば、もう少し良くなっていくのではないかと。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は変わらず横ばいである。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・客単価は上昇傾向にあるものの、来客数が減少している状況に変化がない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客がジャストシーズン型になり先物の商材に興味を示さないため、日々の天候に大きく左右されている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・プレミアム付商品券の効果を期待していたが、9月、10月と売上が逆に減少し、消費の方向が生活必需品に偏っているようで、ゆとりのある様子がみられない。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・販売量などの動きが平行線である。
		家電量販店（統括）	来客数の動き	・既存店舗の来客数の減少がいまだに改善されない。客単価の上昇で売上を確保している状況が続いている。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・国内消費は踊り場状態と考えている。前年の来客数を割っており、消費者ニーズの多様化なのか、要因が把握できていない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・9月の決算が終わり反動減があったため、期待していなかったが、例年に比べると販売量が増えている。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	販売量の動き	・来客数が若干減少し、販売点数がやや増えている。一気に寒くなるかと思ったがまだ暖かい日が多く、暖か商材の動きはまだ鈍い。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べて販売量が減っていると同時に、来客数も減っている。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	お客様の様子	・プレミアム付商品券の販売から時間が経過したものの、食料品を中心とした実需品での利用が目立ち、依然生活環境にゆとりは見受けられない。
		その他小売【ゲーム】（開発戦略担当）	販売量の動き	・前年比70～80%となる見通しである。昨年は新作大型タイトルがあり、今年はなかったという理由はあるが、定番系タイトルも動きが鈍く、低調である。
		高級レストラン（副支配人）	来客数の動き	・法人関連の宴席の推移から、変わらない。
		高級レストラン（仕入担当）	単価の動き	・販売量は前年比で増えているものの、販売単価を上げられるほどの勢いがまだない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気はそれほど変わらない。販売量が増えているのは、ケータリングの仕事が多少増えているためである。店の通常客はそれほど変わらない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・回遊する人数は増加傾向にあるが、集客には直接つながらない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数及び単価はあまり変わらず、売上は全体的に良くはない。何かもっと良くなるような方策があればと思うが、サラリーマンの動きも今一つである。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・前月比でみて、3か月前の7月1～28日までの売上は101.6%、来客数98.1%であった。今月は、1～30日までの売上が106.1%、来客数102.3%という結果である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は夏の勢いが少し落ちて、やや穏やかな動きである。今までが忙しかったため、ゆっくりした状態である。
		都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・稼働率が好調である。販売量、金額共に前年を上回っている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年同期比100%前後のため、変わらない。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・円安傾向が変わらない。
		旅行代理店（販売促進担当）	販売量の動き	・個人は9月の北関東での豪雨の関係で、被害はそれほどなかったが、その後の風評被害や旅行の手控えで非常に厳しい。また、団体、法人共にそれほどの伸びもない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月の景気は低迷したままで、前年同月比と変わらない。相変わらず空車タクシーの列だけがいつもの様相で、高速道路もスムーズに走れる、ただし、カード利用者が多くなっており、遠、中距離客のほとんどが利用する。少し忙しく感じたのは月末の1日だけである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・個人タクシーだが、客の様子は会社関係は変わらない感じである。下町の昼の客は高齢者や主婦層が多いが、景気の悪さを感じることはない。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・10月から下期修正予算となり、テレビは当初予算と比べて増加、インターネット、電話は減少の予算に対し、現在、獲得、解約共にぎりぎり達成するような状況である。今月後半からMVNO（仮想移動体通信事業者）サービスが予約開始となり、順調に滑り出している。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・今月も契約自体は順当に獲得できている。解約については当初見込みより増加傾向にあるが、2015年1月から月次の目標は達成できている。しかしながら、伸び率は前月くらいから鈍化傾向にある。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・販売量は若干減少しているものの、台風など天候によるものもあり、実質的には横ばいである。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ケーブルテレビ設備を導入していない集合住宅へ導入工事を行い、併せて加入の促進をした結果、契約数が増大した。しかし、インターネットと電話のサービスは既に加入している他社と月額料金を比較して、当社の方が安いために乗り換えた客が多かった。客は価格について敏感になっている。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・多チャンネルサービスの上位コースの比率も横ばいであり、景気の上昇、下降は感じられない。
		通信会社（局長）	単価の動き	・契約数は前年と同程度である。トレンドは上昇気味だが、単価が上昇する気配がない。契約数の増加は他社動向が影響しているため、決して景気が上向いているとはいえない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・加入状況について新規加入、コース変更いずれも必要最低限の選択をする客が多い傾向に変わりはない。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・案件の増加がみられない。
		ゴルフ場（支配人）	競争相手の様子	・地区の同業者の来場者数及び収支状況については、平年並みの数値である。
		ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・今年に入り、ここ数か月の状況の変化はあまりみられず、例年より客単価を上げられる状況にない。
		その他サービス 〔保険代理店〕 （経営者）	販売量の動き	・単品のみで複数の商品購入が減少している。その分、単価上昇に傾注し、そこそこの売上を維持しているが、思ったとおりの状況にはなっていない。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・当社の仕事全体でみると、行政の指名や入札が多いものの、それ以外の民間案件の動きは大変低調である。住宅の建築は多くが住宅メーカーになってしまい、地元工務店にほとんど仕事が来なくなってしまい、ここ最近では住宅産業メーカーに追われている感じがしている。設計業務も非常に少なくなり、入札や一般から取る仕事は大変難しく、先がみえない状況である。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・先月と同様、期初に始まったプロジェクトは粛々と動いており、新しいプロジェクトの話もあるが、まだ具体的な話とはなっていない。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・戸建住宅の契約が低調である。客との商談に時間がかかっており、決定力が弱くなっている。賃貸住宅は前年と比べて横ばいで、多少好調を維持している。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・土地利用を絡めた大型物件の受注量が減少しており、戸建住宅部門の奮闘だけではカバーしきれず、全体の受注残が減少傾向にある。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・客の買物動向をみていると、最近は非常に節約型になっている。1つの商品を買うのに、よく周りを見て、さらに他店を回り、なおかつリーズナブルな値段の物を買っている。
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	販売量の動き	・当店ははじめ、近隣の商店が静かである。ただし、工事などは忙しい。商品の動きをみても良くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・近隣の競合店が改装工事で休業している。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	競争相手の様子	・茶葉と粉末茶がお茶屋にとって売上の大きなウエイトを占めている。粉末茶の競争見積は今まで粉末茶のみだったが、景気悪化により、自動給茶器の販売、レンタルによる粉末茶の代金を契約書に盛り込む業者がほとんどである。見積の競争に参加できても、現在の業者に勝つには機械の売上利益はほぼゼロという厳しいハードルを越えないと客を獲得できないのが現状である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・天候が不安定で来客数が97%と落ち込んでおり、売上も婦人服、紳士服は厳しい。その反面、化粧品は好調である。客は必要な物以外は買い控える傾向にある。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・宝飾類など一部高額品の動きはあるものの、デリーの消費に慎重な姿勢がうかがえる。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・前年の消費税増税による買い控えの影響が消えてきた夏場以降は、継続して来客数が5%程度減少傾向にあり、なかなか歯止めがかからない。また、近隣で大型ショッピングセンターの出店などもあり、将来的にも商圈の拡大は見込めない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・婦人服の高額品は動いているものの、中間層の動きが悪く、来客数が伸びていない。中間層の実質賃金が上がらない以上、衣料品にお金を出す、あるいは買物することが二の次になっている。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・生鮮三品を中心に食品の不振が影響している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・買物の単価、来店回数が減っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数が思ったより伸びていないこと、特売やチラシで安売りをしても、それほど多く買っていない。点数が伸びず、単価が下がっているため、売上が思うようにいかない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客は少しでも安い物、単価が同じであればメリットのある物を選んでいく。また、品数も減っている。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売量が減少傾向になっている。客の動向も悪く、購買意欲が感じられない。
		乗用車販売店（総務担当）	来客数の動き	・決算月の翌月でもあり、販売、客の動きが鈍ってきている。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数はある程度見込まれているものの、それに伴う販売点数、販売額は伸び悩んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・10月に入って明らかに売上が伸び悩んでいる。フリーの来店客も今一つである。月中から若干持ち直したが、月初からの落ち込みが響いて、伸び率が9月までより若干鈍化している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・売上は変わっていないが、様々な必要経費がかかってきて利益が少なくなっている。周りをみても良い材料がないので、あまり良くない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・観光のトップシーズンということもあり、宿泊は依然として好調に推移しているものの、婚礼や宴会、レストランの売上が伸び悩んでおり、全体的には厳しい状況が続いている。個人、法人利用共に減少しており、景気はやや悪くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・終電後に人の動きがない。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・シルバーウィークの反動が、街中に人気がなく、利用者が減少している。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・契約数が上期に比べて減少傾向にある。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前年同月と比較して、大きく実績の下回る日が続いている。
		通信会社（総務担当）	単価の動き	・異常気象に伴い生鮮食料品の価格が高止まりし、家計を圧迫しているが、季節的にみても回復が望めない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数は前年より減少傾向である。ゴルフ場は天候に左右されるが、それだけではなく、景気の影響を受けている。
		パチンコ店（経営者）	競争相手の様子	・新装開店で新しい台を入れる。以前は台の入替えをすると確実に来客数が増えたが、今は現状を維持するのがやっとという状況が当店、ライバル店共に顕著である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・天候が不安定なので、早く落ち着いてもらいたい。	
		その他サービス 〔福祉輸送〕 （経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量、客の動き共に若干勢いを失っているように感じる。	
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・官民間問わず、受注するためには価格競争に勝ち抜くことが条件になっている。企業努力にも限界があるので、厳しい状況が続いている。	
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・下期に期待しているが、特に、民間案件では計画が中止になっても、引き続いて相談をすることもなくなっている。	
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・仕事量が一極集中型になっており、地方では非常に少なくなっている。新築物件が非常に少なく、設計施工の仕事が多いのではないかと感じて。同業者等の動向をみている、仕事が少ない。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・当社は住宅を主に扱う不動産デベロッパー業と総合建設業だが、昨年4月の消費税増税以降は全く販売量が伸びない。客の所得が増えていないところに増税と物価上昇などで将来に不安を持っているため、住宅ローンがやがて支払えなくなるのではないかと考えているようである。一方、総合建設業では公共工事は沢山あるが、工事原価が上昇しているため赤字の現場が多く、なかなか受注に結び付かない。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・10月下旬にイベントを行ったが、集客が芳しくなかった。また、契約も前年に比べて落ち込んでいる。	
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・本来であれば繁忙期が始まる時期であるが、需要が上向く気配がなく、むしろ実際の注文量が落ち込みだしている。	
		悪くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・シルバーウィーク以降、単価が前年より10円も下がっており、その分でマイナスである。お金がないのか年末まで買い控えという感じである。
			その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	お客様の様子	・とにかく売れず、客が買ってくれない。
企業動向関連 (南関東)	良くなっている	通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・マイナンバー制度関連の需要もあり、2けたの伸びとなっている。	
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・交通誘導警備員の依頼が多く、すべて受注できない。来年3月くらいまでこの状況は続く。	
	やや良くなっている	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年比では悪化しているが、3か月前との比較では悪くはない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今まで引き合いが来ていた物件が、ここにきて決まりだしている。新製品や営業努力をしていることが良い結果に結び付きつつある。	
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・見積の依頼が多くなっている。	
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・1年半後の消費税増税で軽減税率の導入が検討されるみに出てきているため、その前に設備投資計画をしようと駆け込み需要が増えてきている。	
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・当社所有ビルの空室率であるが、内部テナントの増床などにより徐々に改善しており、近々、ほぼ満室になる予定である。	
		税理士	取引先の様子	・3か月前に比べて衣料品、食料品共に前年より売上が増加傾向にある。年末に向けての動向も明るく感じる。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・市内繁華街の和食店経営者は、「食材の仕入値の上昇もあって、今月、全体的に価格を上げた。当然ながら、ある程度の売上減を覚悟していたが、思ったほどではなかった。来客数はほとんど変わらず、高額メニューの注文数が若干落ちたが、それもしばらくの間だけで、今では値上げ前と変わらなくなっている。」と話している。	
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は増えているものの特別な注文が多く、店頭での売上は前年割れである。	
食料品製造業（営業統括）		受注量や販売量の動き	・カテゴリーによって売行きに差があり、良いか悪いか分からない。		



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版・印刷・同 関連産業（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷の仕事をしている。今月は 個人の印鑑特需があり、1人で10万円以上の注文をす る客もいた。その一方で、会社関係のゴム印はいつも の6～7掛け程度の受注量である。
		プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・受注も売上もなかなか伸びず、変化はない。特に注 目するところはない。
		プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・化粧品容器の受注はインパウンドの影響で増加傾向 にあるが、住宅関連部品や医療品容器の受注が消費税 増税後の受注減から回復せず、一進一退を繰り返して いる。
		一般機械器具製 造業（経営者）	受注価格や販売 価格の動き	・受注量はそこそこあるが、内容的に利益が出るよう な単価にはなっていない。
		その他製造業 〔靴〕（経営 者）	取引先の様子	・取引内容においても、また、周囲の話からも特別良 い、悪いという話は出ていない。この状況のなかで安 定している。
		建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・商品が売れない。
		輸送業（営業担 当）	それ以外	・同業他社のドライバーが、通常、今月あたりから繁 忙期を迎える来年のカレンダーの出荷搬送が低調で 困っている、と話している。
		輸送業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・売上を大きく伸ばすような案件がなく、また、物量 も多くなっていない。相変わらず低迷が続いている。
		金融業（統括）	取引先の様子	・新しい前向きな資金ニーズが少ない。
		金融業（支店 長）	取引先の様子	・海外進出している企業では、中国経済減速の影響が 出ており、売上、利益共に減少している。
		不動産業（経営 者）	競争相手の様子	・駅から徒歩4分のRC14階建て36戸、28.51平米、 5月完成物件は、礼金敷金なし、賃料79,000～87,000 円、共益費5,000円、広告料100%、オートロック、防 犯カメラ、2口ガスコンロ、メールボックス、便座 等、設備は完備しているが、16戸が未契約のままであ る。また、他の物件でもまだ24戸が未契約で、広告料 300%もそのままである。
		不動産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・当テナントビルは飲食業が多いが、その入居に変化 はない。
		広告代理店（従 業員）	取引先の様子	・景気は良くなっているようだが、イベント等への企 業協賛がまだ厳しい。
		税理士	それ以外	・いつも夜、最寄駅周辺を歩きながら飲食店を見る が、客が入っていない。大企業などでは円安等を含め て利益が出て景気が良いようだが、小企業等の一般の ところには全然回って来ていないのではないかと。
		社会保険労務士	取引先の様子	・資金繰りが厳しい会社と人の雇い入れが少なくな っている会社が見受けられる。
		経営コンサル タ	取引先の様子	・金属加工業については、基盤的な仕事をしてい るが、下期に入り、風向きは低下気味である。設備投資 が鈍化している。
		その他サービ ス業〔廃棄物処 理〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・V字回復とまでは言えないが、東日本大震災後の例 年程度の受注量にはなっている。ただし、取引先等の 様子からも景気が良くなっているとは言えない。
		その他サービ ス業〔ビルメン テナンス〕（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・今月から最低賃金上がり、人手不足もあって、都 心のエリアによっては受注価格も多少高くなってきた が、全体で見ると代わり映えしない。
		その他サービ ス業〔情報サー ビス〕（従業員）	受注量や販売量 の動き	・インターネット設備構築に費用をかけることができ ない客は少なからずあり、受注数が伸びない。
	やや悪く なっている	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	競争相手の様子	・同業他社の競合激化で、売上は徐々に減少してい る。試行錯誤を重ねながら今後を切り切りたい。
		出版・印刷・同 関連産業（所 長）	受注量や販売量 の動き	・前年の数字も確保できないくらい受注案件が減少し ている。年末の繁忙期に向け、まだ引き合いが出てく る時期ではなく、動きもあまりみられない。
		出版・印刷・同 関連産業（営業 担当）	競争相手の様子	・今月に入って下請専門の同業他社で新規開拓の営業 訪問が数件あり、この9～10月の受注件数が前年と比 べて少なく厳しいと話している。
		金属製品製造業 （経営者）	取引先の様子	・今月は研究開発の仕事が出ているが、技術的に非常 に難しいものの割に価格が安く利益につながらないた め、苦しい状況は変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・当社は建設機械向けの部品を製造しているが、各得意先からの受注量、生産見通し量共に減少している。海外は中国の景気低迷が、中国だけではなくヨーロッパ向けやアジア諸国向けにも影響を与えている。国内向けは、自動車排出ガス規制の反動と考えている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・急に引き合いが落ち込んで、今までにないくらい商談が決定しない物件が多いので、先行きが全くみえない。このままでもっと落ち込むのではないかと。	
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大規模工事が多く、中小工務店にはまだ仕事が出ていない。特に、住宅に関しては行動が遅く感じる。	
		建設業（経営者）	取引先の様子	・取引先で9月くらいまでは何とかできていたが、ここにきて仕事が少なくなってきていると話している。建設業は順調にしているが、製造業はかなり厳しくなっているようである。	
		建設業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・夏場に秋口にかけての案件が不透明にみえたが、秋風が吹くようにめばしい案件が少なく、受注が伸びない。	
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・毎年恒例となっている取引先の新年の顔合わせ会が来年は中止となった。荷主業界の現況の厳しさを感じる。	
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主の国内出荷量は依然として微減状態であり、年度後半に入ってからでも低迷している。	
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の企業では設備投資計画の見直しや様子見が出てきている。小売業では物価の上昇による消費減退感、不動産販売では商品の仕入をやや抑える動きが出ている。	
		金融業（役員）	取引先の様子	・補助金によって少し活気付いていた設備投資意欲も鈍化傾向にある。建設関連では景気の良い話が多いものの、実際の仕事に結び付くものが少ない。	
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	取引先の様子	・国際会議など、業種によっては支払面でもかなり厳しい様子がみられる。	
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・案件の減少が続いている。		
	悪く なっている		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月比で25%減少しており、客先の下期計画は平均してマイナス8%である。中国経済の減速や国内消費の鈍化、企業の支払条件変更等がマイナス要因である。
			輸送業（経営者）	競争相手の様子	・このところ急に値下げを申し出る業者が多くなってきている。何とか我慢してやるうと思っているが、なかなか対抗できない。
広告代理店（経営者）			受注量や販売量の動き	・新規受注につながればと、提案やネタ探しに客先との打ち合わせを重ねているが、結局、ほとんどが空振りに終わり、かけた手間を回収できない状態が続いている。	
雇用 関連 (南関東)	良く なっている やや良く なっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・有効求人倍率が高い状態を維持しており、様々な求人サービスを求める企業の声が増えている。	
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は数か月前より増加傾向にある。また、求職者数も数か月前より増加しており、前年比1.5倍くらいで推移している。求人数の増加に伴い人材が流動化し始めており、業界全体としては活性化している。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の新規求人数の推移をみると、今年度に入り前年同月比マイナスの月が多いが、求人申込件数で見ると5月がマイナスだった以外はプラスで推移していることから、企業の求人意欲は高く、やや良くなっている。		
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・特に医療、介護、保育、建設業の求人が多いが、各業種万遍なく求人が続いているので、業種に関係なく人手不足を感じている。		
	民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・今期の採用活動に手こずった金融業を中心に、早期のインターンシップ開催が目立っている。大学開催の学内合同説明会のほか、就職情報会主催のイベントも好調である。		
	変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・どの業種も特に目立った求人増はない。
人材派遣会社（社員）			求人数の動き	・求人数は堅調な状況が続いている。	
人材派遣会社（社員）			それ以外	・会社全体の給与水準が上向きではないため、変わらない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・労働者派遣法改正により派遣依頼が増える見通しだが、今月は特に目立った動きがない。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数、求職数共に横ばいである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・どの企業もあと1～2名の採用が欲しいということで募集を出しているが、全然採用できないということで、求人を出したままにしている傾向がみられる。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	採用者数の動き	・自社の年間計画で、中途採用者数を増やすことが決定された。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比7.5%増と前月とは変わり増加となったが、増加要因は医療、福祉が大幅に増加したため、他の産業はあまり増えていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月の月間有効求人数は8,119人と前月比で2.4%増加し、前年比では3.0%の増加である。また、9月の月間求人倍率は1.10倍で前月から0.05ポイント上昇し、前年比では0.14ポイントの増加となっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・市場拡大に期待できず、生産、販売などの面でも現時点で採用増には結び付いていない。技術、営業、管理部門での将来的な人材確保の要請はあるので、求人は今までと変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・新卒採用の時期変更により、中堅、中小企業の採用数が担保できず、継続している企業が多い。また、中途採用も継続して活発である。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整を行う事業所が増えてきており、特に、金属製品製造業、小売業などで増えている。
	悪くなっている	-	-	-

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東海)	良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・買物をする客の表情が明るく、景気はまだ良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・堅調な秋冬ファッション商品に加えて、インバウンドが消費を一層拡大している。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・8～9月があまりに暑くパーマをかけたい人の客足が鈍くなった反動で、10月に入ってからはずっと忙しい。
		その他サービス[介護サービス]（職員）	それ以外	・人手不足のため人材募集を行っても、他の業種の景況が上向いているため、採用が困難となっている。
	やや良くなっている	一般小売店[土産]（経営者）	来客数の動き	・好天に恵まれたことや伊勢志摩サミットを前に興味を持った旅行者等の増加等による、プラスの効果が見られる。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・海外特選ブランドや宝飾時計等の高額品の動きは引き続き良く、気温が低めであったことから秋物衣料品の動きも活発である。懸念していたインバウンド需要も、引き続き好調である。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・前年に比べ雨天が少ないことやハロウィンイベント、カード会員向けプロモーション等により、今月は前年を上回る推移となっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年同期にも売上が5%伸びているが、その要因は客単価の上昇であった。今月も売上が約10%伸びており、要因としては、来客数の伸びが大きくなっている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・運動会での飲料や菓子等の販売が売上を底上げしている。気候の冷え込みとともに、肉や野菜等の鍋用食材等を買って帰る客が見受けられる。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・雨が少なく晴れの日が続いているおかげで、来客数が増えている。
	コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・10月中旬までは気温が高めで、天候にも恵まれている。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・キャンペーンや新商品等に加え、テレビCM等の効果で、来客数が前年同期比で3%以上増加している。	
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・新規客からの依頼が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 [紳士服洋品] (売場担当)	お客様の様子	・気候の要因も大きい。購入単価は上がっており、客の財布のひもは若干緩くなっている。
		家電量販店(店員)	販売量の動き	・冷蔵庫や洗濯機の買換え需要が増えている。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・販売量は増えてきている。問い合わせの内容も良くなってきており、客の動きが良い。今月の手ごたえは好印象である。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・年末に向けた動きや、消費税増税を見込んだ動きで、新築住宅、マンション、リフォームや大規模改修等の民間工事が増えている。
		その他専門店 [貴金属](営業担当)	お客様の様子	・年末に向けて下見に来る客が、徐々に多くなっている。
		その他飲食[仕出し](経営者)	販売量の動き	・大口案件を順調に受注している。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・秋の行楽シーズンのピークであるとともに、インバウンドが増え続けており、シティホテル中心に満室日が続いている。貸切りバスの需要も非常に多く、予約できない日が多数ある。このような状況で料金が予算を上回っても申込み客があるので、懐事情は良好と感じる。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売量は毎月増え続けており、足元でも増加傾向にある。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・9月の大型連休以降の客の入込は堅調である。
		テーマパーク (経営企画担当)	来客数の動き	・ハロウィンによるイベント効果がある。
		ゴルフ場(企画担当)	来客数の動き	・ゴルフシーズンであるので、天候が良ければ好調に推移する。今月は天候に恵まれたこともあり、入場者数及び売上共に、予算比でも前年比でも大変好調に推移している。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注がやや好調である。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・客には購買意欲が感じられるようになってきた。しかし、原材料が高騰する等、価格が安定しない。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費者には節約志向が感じられる。
	変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・販売量、客単価共に低下が続いている。客に対して様々な提案を行っても反応は薄く、売上の確保には結び付かない。消費者は、品質より、とにかく安い物を求める傾向が強い。
	変わらない	一般小売店[高級精肉](企画担当)	販売量の動き	・株価、為替相場共にあまり変化がなく、その影響なのか景況感には変化がない。
	変わらない	一般小売店[結納品](経営者)	販売量の動き	・地方の小売業は、ずっと悪い状況が続いている。
	変わらない	一般小売店[酒類](経営者)	来客数の動き	・9月の大型連休以降、特に10月前半は、飲食店への客足が止まったと言えるほど最悪である。特に月曜日から水曜日の客足は本当に悪く、厳しい状況が続いている。
	変わらない	一般小売店[薬局](経営者)	販売量の動き	・2~3か月前は天候不順等で客足が悪く、来客数や売上が落ちていた。ごく最近では天候が良く、売上や来客数も多少は増えていると感じるが、10月全体でみると伸びてはいない。他の店主との会話では、週末が悪いという声が多い。処方箋調剤の売上は変わりがない。
	変わらない	一般小売店[生花](経営者)	単価の動き	・客単価が低下している。仕入価格は上がっているのでも、安くても見栄えが良くなる工夫をしているが、一本当たりの値段を細かく聞く客が増えている。一方、高くても構わないので良い品物をという客もあり、格差を感じる。
	変わらない	一般小売店[贈答品](経営者)	お客様の様子	・客層が、安い物を購入する堅実な層と高額商品を買いたい求める層に大きく二分化している。アベノミクスで売上が増加しているように感じるが、結局は客の一部であり、全体の売上としては変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量が前年同期と変わらない状況が続いており、少なくとも下回ることはなくなっている。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	お客様の様子	・客のニーズにうまく合えば、売上は確保できていると感じている。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・受注量は3か月前と比べ特に大きな変動はなく、客の予算にも目立った動きはないことから、景気は停滞状態である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・秋冬物の衣料品に対しては、客は吟味をし、買い控える傾向が続いている。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・気温は下がって天候も良く、月初めから衣料品の動きも活発化している。ただし、中旬以降は停滞感が続いている。
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・ギフト需要がメインになってきており、購入は決まっても、購入時期はまだ先という様子が見える。自家需要は伸びてきており、購買意欲の高まりを感じる。購入単価も比較的高く、高額品の動きも良い。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・インバウンド需要による高額品や化粧品、雑貨等によって、来客数や売上高が支えられているが、従来からの客層の来店や購買に関しては、厳しい状況が続いている。長く使えて無駄にならない、安心できる商品の購買が目立ち、衝動買いはしない傾向が続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・単品単価は相変わらず上昇しているが、購入点数の伸びが鈍化しており、客単価はそれほど伸びていない状況である。
		スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・売上は前年同期比で119%と良くなっているように見えるが、今までかなり数字を落としてきているので、前々年と比べると、まだ改善したというほどの数字ではない。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗の売上が、前年同期をクリアしていない状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価が好調に伸びているため、売上は回復傾向だが、来客数がまだ回復していない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・利益には影響しないものの、サービス商品、ギフトカードやネットフリカ等の販売数が落ちてきている。それに伴って全体の購買単価が下がっている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・繁華街のそばに立地するが、客の動きは変わらない。客足は月曜日から水曜日にかけては少なく、週末につれて多くなる状況が続いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年同期に比べて冷蔵庫等の白物商品の動きは良いが、映像商品等の黒物商品の動きは、エコポイント終了以来、回復しない状況が依然として続いている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・大手企業では冬のボーナスが過去最高という記事等も目にするが、本当に大手だけの話であり、中小企業や個人事業主のほとんどは、厳しい状況が続いている。建設関係の客からは、景気が悪いという話をよく耳にする。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今月は、特に良くも悪くもない状況である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・会社全体の販売台数は前年比90%前後で推移しており、当店も目標台数には及ばず、3か月前の状況から変わっていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売動向は、これまでの動きから大きな変化は感じられない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・売上がもう少し悪くなると思ったが、思ったより持ちこたえている。新型車種は出ていないが、新車購入を検討する客は多い。下取車には、9年以上前のものや走行距離15万キロ以上の車が多い。連日の高齢者による自動車事故のニュースで、高齢化する団塊世代が子や孫に促されて、自動ブレーキ付の車種に買換えるケースが増えている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客が興味を持ち購入を考えている車と、メーカーの生産計画にかい離があるのか、新車納入を待つ車種と在庫が増えて販売に悩む車種に二分化している。来客数は減少しており、店頭は活気に乏しく、市場としては厳しい状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車販売業界では、悪い状態がずっと続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・前年4月の消費税増税以来、販売がなかなか回復しない。
		その他専門店 [書籍](店員)	来客数の動き	・比較的雨天が少なく、来客数が伸びている。ハロウィン関連商品の動きが良く、書籍の売上は減少しているものの、手帳や文具でカバーできているため、前年同月に比べると、多少ではあるが売上は伸びている。
		その他小売 [ショッピングセンター](経理担当)	販売量の動き	・売上高は前年比で11.5%の増加、来客数は、同じく2.2%のプラスとなっている。
		高級レストラン (役員)	来客数の動き	・来客数は9月の大型連休の影響から若干増加したが、一時的なものであり、景気回復には力強さを感じられない。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・客からは年金支給額カットの話題をよく耳にする。企業の交際費も厳しいようである。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・3か月前の宿泊は、前年同期比90~95%で、前年比の数字は変わっていない。来客数は、前年より5%ほど下回る傾向が続いている。
		都市型ホテル (支配人)	単価の動き	・宿泊客は、季節要因もあり単価が上昇しているが、レストラン、宴会部門の動きが依然として弱い。
		都市型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・客には、特に悪くなったり、良くなっている様子はない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・9月の大型連休から10月の秋の行楽シーズンにも、売上は伸びない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・旅行シーズン中の販売は、例年どおりで推移している。12月から翌年にかけての商品は、まだ数字がつかめていない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・年末まで残り60日ほどになり、年末年始の予約の動きもちらほらみられる。料金の問い合わせ件数は、多くなっている。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・自動車産業は空前の利益であるが、タクシーや飲食店で消費が増えているという話は耳にせず、逆に客単価が下がっているとの声を聞く。タクシー運転手の日収が以前より落ちているという話を、名古屋だけではなく東京でもよく耳にする。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の繁華街では、長い間、人出の少ない状態が続いている。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・ここ数か月、新規契約数、解約数共に安定して推移している。
		通信会社(サービス担当)	お客様の様子	・携帯電話会社の掛け放題プランにより、固定電話の解約が目立っている。
		テーマパーク (職員)	お客様の様子	・インパウンドの客が多いが、日本人客は少ないので、景気が上向きかどうかは判断しづらい。
		観光名所(案内係)	お客様の様子	・例年どおり、秋になって富士山への観光客が少なくなっている。
		美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・例年と同様に、ホームケアセットのキャンペーンで、8~9月に購入した客の購入が、しばらくはなくなる。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・来場数は例年どおりである。プラスの材料として、消費税増税を気にかける客の来場が、少しずつ増えている。
		その他住宅[不動産賃貸及び売買](経営者)	単価の動き	・客の購入希望価格が、なかなか上昇しない。
やや悪くなっている		商店街(代表者)	単価の動き	・一時は上向いていた客単価がまた下がっている。購買数に変化はないが、千円以上の商品の売行きが、極端に落ちてきている。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・来客数が、だんだんと減少している。特に、仕事関係で進物を購入する客の来店がない。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・来客数は変わらない。平日でも、売場への立ち寄り客はあるが、購入客は減っており、売上確保は厳しい。
		百貨店(経理担当)	お客様の様子	・売上に大きな減少はみられないが、購買には慎重さがうかがえ、ここ数か月あったような強い購買意欲が感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・生鮮食品の売上は伸びているが、それ以外の売上は伸びない。節約思考でディスカウントショップ等で購入する人が多い。大学病院へ行く機会があったが、春ごろよりも病院に来ている患者は少なくなってきている。治療費が掛かる病院よりも、安い病院へ行くようである。全体的に消費は伸びず、原油価格が下がっているのでデフレ現象も起きており、景気は相変わらず良くない。	
		スーパー（店員）	単価の動き	・普通の商品が全く売れず、その時々安い商品だけが売れている。売上回復にはなかなか結び付かない状況である。	
		スーパー（商品開発担当）	来客数の動き	・前月よりも来客数が減少している。客単価や単品単価が良好であるため、売上は予算、前年比共達成できる見込みであるが、このまま来客数が減少すれば、状況は厳しくなる。	
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・10月は雨の日がほとんどなく、天候には恵まれたが、売上は前年同期に届いていない。	
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・ここ2～3か月は新車販売にとっても苦戦している。これといった需要喚起の要因もなく、新車を見に来る客も減少している。	
		その他専門店【雑貨】（店員）	販売量の動き	・客は、必要な物を必要な量しか買わない。	
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・客1人当たりの注文数や客単価が低下している。	
		一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・10月は、上旬にサッカー日本代表戦、下旬にはプロ野球日本シリーズとゴールデンタイムにスポーツ中継番組があって、全く客が来ない。	
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・一般宴会は3か月前よりは良い方向にあるが、宿泊者数の伸びが鈍り前年並みとなっている。食堂部門は、好天の影響で週末の来客数は目に見えて少なく、10%以上も落ち込んでいる。全体的にみると、やや悪い状況である。	
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・予約客のリードタイムが短くなっており、景気が後退している印象を受ける。	
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・秋の本格な旅行観光シーズンであるが、海外旅行も含めて契約高が伸びておらず、かなり厳しい状態になっている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月も連休があって出費が増えたためか、夜の飲食街の客が目に見えて減少している。毎週末の人出も少なく、今月の売上はかなり落ち込んでいる。	
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・夏場に比べて客の動きが鈍くなってきている。	
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店がない。	
		美容室（経営者）	単価の動き	・トリートメントやヘッドスパ等、基本料金プラスアルファの部分に金を使う客が少ない。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・当地は政令都市ではあるが、街全体で景気が良くない。若い女性の人口流出が続いていることが問題である。	
		その他サービス【介護サービス】（職員）	お客様の様子	・介護保険サービス利用時の個人負担割合が、8月から収入に応じて2割となる人が出ている。客によっては、サービス利用を控えたり、単価の安い品物を選択する傾向が現れている。	
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・打合せ等の話題では、忙しいが、景気が良いとか儲かっているという話は聞かない。	
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・個人住宅の新築という話が少ない。	
		悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・10月に入っても暖かい日が続いているため、冬物の購入に来店する客が非常に少ない。
			パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数や客単価の動きが悪くなっている。
			理容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず、安い店に客足は流れており、景気の良い話は出てこない。
			住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・客の所得が増加してはいないので、単価の安い物件しか売れない。
その他住宅【住宅管理】（経営者）	単価の動き		・公共工事の量、金額共に前年より減少しており、地方の業者は民間工事を取り合っている。中小企業の経営状況は、相当厳しい。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連  (東海)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業 (経営企画担 当)	受注量や販売量 の動き	・秋冬物商品の出荷が好調に推移している。特に高付 加価値商品の需要が高まり、ある程度の収益も確保で きている。
		窯業・土石製品 製造業(社員)	受注量や販売量 の動き	・2年ほどかけて売り込みをしてきた新製品の需要が 急激に拡大している。価格より納期最優先の注文が 入っており、残業で対応している。
		金融業(法人営 業担当)	取引先の様子	・取引先の中小製造業では、燃料価格や原材料費の低 下により総じて利益が改善傾向にある。
	変わらない	パルプ・紙・紙 加工品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・大口取引先からの受注が多少減少しているが、全体的 的には3か月前に比べてあまり変わりはない。
		出版・印刷・同 関連産業(代 表)	取引先の様子	・ネット販売に移行する客が年々増えている。
		化学工業(人事 担当)	それ以外	・自宅近くの大型ショッピングモールでは、客足や食 料品売場のレジの状況等には、特に大きな変化は感じ られない。しかし、セール目当てに来店する人が多い ようで、少しでも安く購入したいという消費者のマイ ンドを強く感じる。
		化学工業(総務 秘書)	それ以外	・足元では景気に対する好材料も悪材料も見受けられ ない。大企業で相次ぐ不祥事は、決して良い材料では ないが、景気への影響はほとんどない。T P Pがまと まったのは良いことだが、景気への影響はまだ先のこ とである。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・受注量が減少しており、受注価格も相変わらず低下 している。
		金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・仕事量は少なくないので基本的には状況は悪くなっ ていないが、受注単価が上がるわけでもなく、収益的 には、まだ改善とは言い難い。
		一般機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・中国の一部のE M S(電子機器受託製造サービス) 企業では生産量を維持し、順調に設備投資を行っている。
		電気機械器具製 造業(企画担 当)	受注量や販売量 の動き	・年初想定よりは輸出が伸び悩んでいるものの、前年 同期比で見れば、悪化というほどではない。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・T P Pも基本的には景気に影響がなく、変化する要 素がない。
		電気機械器具製 造業(総務担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・客先のケーブルテレビ等、通信関係の業績は好調な ようである。ただし新たな設備投資を積極的には行わ ないので、取引業者では厳しい状況が続いている。利 益が上がらなければ、従業員のリストラを行い事業を 縮小せざるを得ない。
		輸送用機械器具 製造業(品質管 理担当)	取引先の様子	・客の生産計画により、現状維持となっている。
		輸送用機械器具 製造業(経営企 画担当)	受注量や販売量 の動き	・客からの受注は、ほぼ想定どおりとなっており、大 きな変動はない。
		建設業(営業担 当)	取引先の様子	・同業者との話では、あまり極端に仕事が増えること も減ることもなく、現状維持が精一杯と聞いている。
		輸送業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・荷動きは低迷したままであるが、安定しているた め、変動が少ないという点では、利益を出しやすい状 態が続いている。
		輸送業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・9月の大型連休明けから荷動きが比較的好調で、10 月に入っても前年同期をやや上回る動きが続いてい る。天候が比較的落ち着いておりガソリン価格が値下 がり傾向にあることで、週末の買物や外出が増え消費 が伸びている。
		輸送業(エリア 担当)	受注量や販売量 の動き	・客先の貨物量は、傾向的には変化はない。
	輸送業(エリア 担当)	それ以外	・飲食店の話では、最近では、1回当たりの支出はやや 増えているが、常連客の来店頻度は間隔が空き、何か イベントがないと来店しない傾向である。	
	通信会社(法人 営業担当)	それ以外	・消費者には節約志向が強い。	



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（従業員）	取引先の様子	・建築業や自動車関連業をみると、比較的大手の企業の景気は若干良くなってきているが、中小企業や下請については、非常に苦しい状況が続いている。企業では二極化が進んでいる。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・株高による資産効果で、資産を持つ人の購買意欲は相応に高い。日本郵政のIPO（新規公開株）への申込も多く、投資意欲もおお盛である。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物件取引の委託件数は増えているものの、実際の成立には至らず、住宅価格は底値安定である。
		不動産業（用地仕入）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格に大きな変化がみられない。
		企業広告制作業（経営者）	それ以外	・ハロウィンで仮装して浮かれている若者たちをみると、景気が上向きであるような雰囲気が出されている。景気の動きは、雰囲気が大きく作用する。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・紙媒体、電波媒体共に、広告受注量にはそれほど変化はなく、思ったよりも伸び悩んでいる。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の荷動きが通常と変わらない。
		公認会計士	それ以外	・円安に伴う輸入材料の価格高騰で、中堅企業ではコスト負担が増加している。また、人件費の上昇が、収益性に大きな影響を与えている。
		会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・どの客も月次の決算・申告は好調で、赤字であったところは黒字になり、累積赤字も少なくなってきている。この傾向はしばらく続いており、変化がない。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・大変な繁忙状況が続き、連日生産を続けている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・取引先では、3か月前と比べて売上、販売状況共に伸び悩みの傾向が出ている。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に回復の兆しはなく、前月より5%ほど落ち込んでいる。季節要因としては年間で最も受注量の増える時期であるが、逆行している。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出に関連する販売量が減少している。
		建設業（経営者）	それ以外	・杭工事の問題で、マンション販売に影響が出ている。問い合わせがあっても、安全性に関する話ばかりで、マンションへの購入意欲が低下していると実感する。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物の荷動きが、前年同月比5.6%のマイナスと、悪くなっている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・中小企業の税務申告では、消費税率8%への増税により、消費税の納付負担が重荷となっている。ほとんどの会社が、預かり消費税を日常の運転資金に使用していることが原因である。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・公共事業の入札案件に、今まで参加していない会社が参加するようになった。
		悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子
	雇用関連 (東海)	良くなっている	-	-
やや良くなっている		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ターミナル駅周辺では新ビル建設ラッシュということもあって様々な企業が移転予定であり、求人数が増加傾向である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人依頼は多数あるが、マッチングする人材がいない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年並みではあるが、3か月前に比べれば良くなっていると感じる。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・派遣者の稼働率が前月よりもやや高いことから、製造業全体が、やや活況になっていると感じる。また、客からの引き合い件数が、3か月前に比べて明らかに増えている。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	採用者数の動き	・自動車メーカーによって差異はあるが、新型車種の発売を控えているメーカーでは、採用者数を確保する動きがある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月比の新規求人数が4か月連続でプラスとなり、有効求人数も2か月連続のプラスである。産業別には、建設、卸・小売、その他サービス業では減少しているものの、製造業、運輸業、宿泊・飲食サービス、医療・福祉では増加し、全体としては緩やかな回復が続いている。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・賞与支給明けや来年4月入社を目指しての活動が活性化する时期的な要因もあり、足元から12月までは転職希望者の登録が増える。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・中小企業診断士が企業支援のコンサルティングを行う目的として、販路拡大や事業拡大といったテーマが増加している。	
	変わらない		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・株価が多少持ち直している。
			職業安定所（所長）	求職者数の動き	・求職者の動きは、前年同月比1.6%のマイナスである。在職者の求職が若干増えているが、自己都合退職や事業主退職の人の求職はいずれも減少しており、雇用の安定化がつかげえる。
			職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人募集の採用意欲は、引き続き全産業においてみられる。正社員の求人数の伸びは相変わらず鈍いが、わずかながら増加をしている。業種別では、医療・介護分野の人手不足は慢性化している。小売業はスーパーのパートを中心に募集が拡大している。自動車等、製造業は、多くの事業所が海外生産へ移ってしまい、引き続き募集の動きは鈍い。再来年度からの消費税増税の影響も楽観視できない状況である。改正労働者派遣法の施行に伴い、パート求人を中心とする労働者募集の動きも活発化している。
			職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数の減少が続いているが、在職者による求職数は、前年同月比で4か月連続で増加している。求人数は高水準を維持しているが、正社員としての求人が増えないため、実際の就職にまで結び付かない。
			職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・人手が不足している企業も多く、受注を制限する等、業績拡大が進まない一因と考えられる。
			その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	周辺企業の様子	・就職フェア等に出席する企業は増えているので、多少は良くなっているのかもしれないが、実感はない。景気が悪くなっているとは思わないが、良くなっているとも思わない。
		やや悪くなっている		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き
新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き			・10月の求人件数は前年同月を上回っている。しかし、製造業の多い地区では前年を大幅に下回っている。正社員から契約社員や派遣社員にシフトする企業もある。	
	職業安定所（職員）		それ以外	・求人募集時の雇用形態には大きな変化はなく、賃金等の上昇も見られないため、あまり良い状況とはいえない。	
	民間職業紹介機関（支社長）		周辺企業の様子	・ドイツの自動車メーカーの不正問題や中国経済の減速から、利益計画を見直す企業が出てきている。大きな動きではないが、一部で求人をストップする企業もある。	
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）		周辺企業の様子	・企業は人手不足ではあるが、業務拡大等の前向きな人材採用ではない。営業的にはマイナスで推移している。今年の新卒者採用活動では、企業は大きな負担を強いられたように感じる。	

## 6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)	良くなっている	タクシー運転手	乗客数の動き	・秋口に入って土日を中心に北陸新幹線を利用した観光客が多く、観光の仕事が多いため好調である。夜の街も県外の人が多くなっている。
	やや良くなっている	コンビニ（経営者）	乗客数の動き	・テレビCMの影響も大きいと思うが、乗客数の増加が最近見て取れる。特に好調に推移しているのが、おにぎりやファストフード、今話題のスムージーといった個性のある商材、独自商材、健康商材といったものである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・当店舗ではほぼ全時間帯の前年比が100%を超えている。販売商品においても高単価のレンジアップラーメンなどの売上が好調で、数年前までの昼食の買い控えなどがなくなったように感じられる。コンビニ業界全体で見れば店舗数が増加しており、飽和しかけている感が否めないが、その中でもここ数か月は好調に推移している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新規の取扱車及びマイナーチェンジ車の増加により、3か月前に比べると受注、販売共に好調に推移している。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・10月の販売量は前年同月比80%であり、7月の販売量は前年同月比71%だったので、3か月前と比較して上向きである。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線開業効果で、宿泊客は増加した。宴会も大きな学会や大会が多く順調に推移しており、売上は前年に比べ2割ほど伸びている。しかし婚礼は競合激化で減少し、レストランも新幹線効果を除くと地元客のディナータイム利用が減少しているように感じる。
		都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線開業以降、インバウンド及びビジネス客の増加により堅調に推移している。レストラン部門の個人、法人利用に関しては足踏み状態にある。また宴会部門、婚礼部門も同様の傾向にある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・大きなイベントもあったが、観光客、ビジネス客ともに増加している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・毎年9～10月はキャンペーン実施月として契約申込は増加傾向にあるが、今年は前年比30%増で推移しており、個人需要の力強さを感じる。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共にここ数か月好調を維持している。競合他社の攻勢も弱まり、契約者数の累計も純増が続く。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示会への来場数やショールームへの来場者が増えている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・例年と同じく、寒さとともに防寒具を探す傾向にある。いつもの光景である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・当商店街の状況は変化なしではあるが、一部には若干好転の兆しがみられる店舗もある。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・商品の値上げが若干影響し、売上額が横ばい状態である。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・例年は年末に向けて売上が徐々に上がってくるのだが、来客数が伸びず売上もあまり変わっていない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・10月初めは観光客も多く前年を上回る数字で推移し、目的買いが多くみられたが、下旬ごろから来客数が極端に減少し落ち込んでいる。プレミアム付商品券の使用期限が今月末に迫っており、まだ持っている人の駆け込みを期待していたが、もう使ってしまったのが、その反動で予想通りにはいかず、伸び悩んでいるのが現状である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来店客の客単価的には落ちていないが、生鮮食品の動きがあまり良くない状況である。今年は気候的に寒くなるのが早いようで、秋商材の動きが今一歩であった。
スーパー（総務担当）		単価の動き	・売上はほぼ前年並みで推移している。しかしその内容は1品平均単価が伸びているためであり、逆に1人当たりの買上点数は減少している。景気は決して良くないと思われる。	
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・値上げなどにより1点単価は上がった状況ながら、既存店ベースでは買上点数、販売量は昨年を下回っている状況が続いている。		
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・イベント規模や天候の良し悪しによって、日曜祭日の数字に多少の上下はあるが、ウィークデーの売上前年比などをみると横ばいの状態であり、変化はみられない。		
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・北陸の中でも、アウトレットモールなどが進出してきた当地が、特に際立って衣料品の落ち込みが大きい。ほとんどの衣料品店が苦戦を強いられていると思われる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・当店舗の実績をみるとやや悪いように思うが、おしなべて横ばいとみるのが妥当だと思う。もう少し良い数字が出て良いと思いつつながら、やっぱりだめだと嘆いている状況である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売数量が下がっているが、商品単価が上がっているため、横ばいである。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・月初に例年通り公共施設を使つての展示会を開催したが、来場数は前年と変わらないが販売台数は前年の60%程度であり、景気は良くないと思う。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・8月以降、出張展示会など積極的にイベントに参加しているが、予想ほど売上に影響していない。
		住関連専門店（店員）	販売量の動き	・この2か月間は若干の回復を見込んでいたが、今月は回復には至らなかった。
		その他小売【ショッピングセンター】	来客数の動き	・肌寒くなり、秋物衣料、高額なフォーマルウェアが動き出したが、例年に比べ販売量が少ない。食料品の値上げが続いているため、購入単価は前年を2%ほど上回っているが、買上客数が3%減と落ち込んでいる。切り売り商品や特売を上手に利用し、購買を工夫している様子である。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	来客数の動き	・今夏の大型商業施設の相次ぐ開業により、来店客が分散している様子である。平日は昨年並みではあるが、週末の集客が割り込む傾向が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線開業後、好業績が継続している。秋の観光シーズンに加え医学系の学会の影響もあり、昼、夜共に来客数は例年比120%を越える。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・旅館宿泊者数は増えていると聞けが、地元商店は目に見えて恩恵を感じていない。プレミアム付商品券の効果もあまり感じない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10月の入込人数も前年比20%ほど増えている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上135%、宿泊者数126%、宿泊単価107%である。14名以下の個人客が前年比149%と大幅に増加し、15名以上も108%と好調である。客室稼働は95%と高水準を維持している。北陸新幹線効果はまだ続いている。
		旅行代理店（所長）	販売量の動き	・受注額が前年比横ばい状況である。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同期比でみると、3か月前から今月まで、ほぼ横ばいの水準の来客数で推移している。
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・積極的な見学や入会の問い合わせなどがなく、全く良くなる気配が感じられなかった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・美容業界では、前年の来客数を維持出来ればまずまずという雰囲気になっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・9月の受注額は目標数字に対し未達であり、前年同月比2割の減少に終わったが、今年度の累計では2割弱の増加をキープしている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・大きな変化が見られない。ただ住宅用地の動きに多少変化は見られるものの、景気が良くなっているまでの実感がない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年以上に催事やイベントで集客に努力しているが、昨年の売上を維持するのが難しい状況だ。プレミアム付商品券の効果も1か月ほどで、購買力は落ちてきている。
		一般小売店【精肉】（店長）	単価の動き	・値上がりによって、高単価商品の動きが鈍くなっている。安い物でそれを補うだけの数字を取れておらず、売上が上がってこないのが現状である。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・プレミアム付商品券の使用期間の終了が目前に迫り、最後の駆け込み需要を期待していたが、先月に続いて生活必需品の購入に使用している消費者が多い。しかし、プレミアム付商品券は9～10月の販売数量及び売上高をけん引し、下支えとなったことは間違いがない。7～10月の4か月連続で前年実績は超える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・通常この10月を考えると、ファッション的には冬のコートやブーツといったトレンドの動きが出てくるのだが、客からの声では、ファッション的なものはそのうち安くなるので安くなってからで良いから、その分を食品関係で少しせいたくをしたいという使い分けがある。いずれにせよ財布のひもは固くて、毎日食べるものだけはちょっとだけでもせいたく感を味わいたいというのが、現状の客の動きであり声である。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・3か月前のプレミアム付商品券フィーバーの月が良過ぎたということなのだろう。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・1週間通じて、平日の通行量が減少していると感じる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・この時期、地酒などはひやおろしや初しぼりの仕込のニュースが新聞などでよく見受けられるせいか、地酒を求める客の割合が普段より多くなっている。売上全体としては、前年の10月と比較して若干落ち込んでいるといったところである。
		一般レストラン（統括）	それ以外	・北陸新幹線開業効果により景気は良くみえるが、人手不足により時間給アップが進んでいる。売上高は維持できるが、時給相場の上昇により残る利益が悪化し始めている。下がった利益分をどうやってカバーするのか見通しが立たない状況である。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・家族での複数台購入がだいぶ減ってきているように思える。原因は新商品発売を控えての買い控えと思われるが、月末になって少しずつ新商品も出てきたが今のところ販売数が特別伸びているわけではない。
		通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・8月ごろから比べると来客数が減っている。新商品も発売されているが、昨年のもものと比較すると動きが悪い。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントの来客数、問い合わせ共に少なくなっている。同業他社のイベント活動も少なく、客の動きもあまり見えない。例年であればイベントの多い時期であるが、今年は非常に少なく、今後の契約数増加も見込めない。
	悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店は常連客の年齢層が高くなり天気の変化や体調などに左右されるため、今月は先月より最悪となり頭を痛めている。婦人服店の経営者からも、先月も今月も非常に落ち込んでいると耳にする。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・欧米市場は横ばいであるが、国内市場の受注が伸びている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・非衣料関係はどちらかという安定しているが、衣料については非常に厳しく、小ロットで回しているような状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が横ばい傾向である。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社も発注している部品メーカーの状況をみると、少数のメーカーは受注が集中し生産が増加しているものの、多くの同業者は新型シーズンを過ぎ、稼働率は低い状態が続いている。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共工事の発注が県や市においても盛んになってきたが、工事場所の関係から、受注できた業者とできない業者に分かれている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・大都市では受注価格競争が緩和しているが、地方では一部に安値受注業者が見受けられ、受注価格競争の激化傾向が起きている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きは良くもなく悪くもない。特に変わりがない。
		金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の業績は良好なものが多いが、先行きを考えると人員の確保や人件費の上昇などを不安視する発言も出てきている。資金需要についても以前は設備投資の需要が強かったが、やや一巡感は出てきており、事業性融資の伸びはやや鈍化している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞いた話では、月によりそれぞれの業者の動きは違うのだが、やはり常に忙しい業者と不景気だという業者が半々であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		司法書士	取引先の様子	・会社の解散より会社設立が多いという、ここ数年なかった状況になっており、久しぶりに高額事業資金の融資案件もあった。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	それ以外	・輸入原材料の仕入れ単価の上昇により、一層収益性が悪くなってきている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・各分野で在庫調整の動きが見られ、受注量の確保が難しくなっている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・前年と比較して特に中国向けの輸出の出荷が減少しており、荷動きが減少している。
		金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の話では、全般的に仕入れ価格が上昇傾向との声が多い。
		税理士（所長）	取引先の様子	・中小企業が大手から受注する案件のエンドユーザーだが、やはり中国向けのキャンセルや計画変更が響いている。今は他の地域への計画変更の時期に入っているのではないかと思う。予定はあるが具体的に話が前に進まない状況で、設備投資に備えた工作機械の受注は、今日立って中小企業の間では減少し、むしろ同業者間の競争が激しくなっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・産育休要員の需要が増えている。期間限定の職であり、将来的に安定しないため求職者が飛びつかない。マッチング率が悪い状態である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・年末までの短期や単発の仕事の求人募集広告を出しても応募者が少なく、良い結果につながらないことが少なくない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1回あたりの掲載件数がほとんど変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・10月の求人広告売上は、前年同月比9割である。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、仕事量に変化はないものの利益がないという事業所の声も多いため、全体として変わらないと感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と新規求人数を比較した場合、マイナス4%という状況であるが、まだ非常に高い水準にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大手企業の求人は終了したが、中小企業の製造業やIT企業を中心に引き続き問い合わせや追加求人が来ている。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・10月の求人広告掲載数は昨年並みで大きく変わらないが、昨年大きな売上ウエイトを占めていた自動車関連の期間工募集の大型広告が少なく、金額は落ち込んだ。今年に入ってのトレンドであったパート、アルバイトから正社員への募集枠の移行もだいぶ弱まりが見られ、昨年同期とほぼ同じ内容になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で約13%程度の減少となった。本年4月以降、2けたの減少は初めてである。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・依頼の案件に期間が比較的短いものや催しの期間だけのものなどが多い。急な人集めが難しいのは、求職者の絶対的不足が原因である。
	悪くなっている	-	-	-

## 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	-	-	-
(近畿)	やや良くなっている	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	それ以外	・訪日観光客が大阪市内にあふれ、一部の業種に限れば潤っている。また、建築業界では東京オリンピック需要で仕事量が増加している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	お客様の様子	・秋物よりも冬物を求める客が増えており、売上も次第に増えてきている。
		一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・会社関係の贈答品の動きが少し増えているものの、一般客向けの販売量は低迷状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・食料品、雑貨品の売上は好調に推移し、高額商材も国内需要、インバウンド需要共に前年の10%増となっているが、ボリュームゾーンの衣料品の動きは相変わらず悪い。一方、早々にスタートしたお歳暮受注は昨年並みである。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・インバウンドの売上は、高止まりで落ち着いてきている一方、富裕層による購入は、美術品や海外の高級ブランドなどで更に増えている。マイナンバー制度の影響が、お金を品物に変えるといつて、高額品を購入する動きがみられる。
		百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・先月と同様に、入店客数は8月までと比べて5%増えているほか、ファッション関連の動きもやや上向いている。特に、ボリューム層の動きがシニアを中心に増えてきている。前年に比べて天候に恵まれている影響も大きい。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・今までは商品に値打ちがあっても、値段が少し高いと購入に二の足を踏んでいたが、値打ちがあれば購入する客が出てきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・食品や住居関連品は、依然として昨年よりも単価が上がっており、買上点数も昨年を上回っている。特に、高付加価値品の動きが良く、プレミアム付商品券による消費の後押しが効いている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・コーヒー類やファストフードの売上が相変わらず好調である。プレミアム系商品の売上も堅調に推移しており、客単価の上昇傾向が続いている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・近隣に食品関係の店がオープンしたが、かなりの集客となっている。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・来客数の増加がみられる。その要因としては、好天やインバウンドの増加のほか、各種施策の効果であると判断している。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・店舗のリニューアルにより、来客数が先月よりも増加している。
		その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・株価は中国の景気後退による影響で、少し上がったたり下がったりしているが、国内では金の相場が高いままであり、客の購買意欲は以前よりも高まっている。
		高級レストラン（企画）	来客数の動き	・飲食部門の客数が、10月以降は前年を上回る傾向にある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・月後半は若干減速気味であるが、アジアからの観光客などで、繁華街の客足が増えている。外国人の個人旅行者による利用が多く、客単価の高い物は相変わらずよく売れるほか、おしゃれで品質の高い物も好まれる。
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・インバウンドの来客数が好調であり、悪天候の影響を補い、前年の売上を上回っている。
		その他飲食【コーヒーショップ】（店長）	来客数の動き	・前年比でみると、来客数が徐々に増えてきている。客の様子に特別な変化はみられないが、データにはそれがはっきりと表れている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・相変わらず、中国や韓国からの旅行客の勢いは止まらず、稼働率が続けている。宿泊単価の上昇が続いていることで、国内ビジネス客の負担が増えている。一方、宴会や食堂の動きは鈍く、前年収入を超えるのが精一杯である。また、食材やパート人件費などの値上がりで収支は悪くなっている。
		都市型ホテル（客室担当）	単価の動き	・稼働率は依然として高水準を維持しており、客室単価も上昇している。
		都市型ホテル（管理担当）	来客数の動き	・引き続き、宿泊に関しては海外からの来客が好調である。レストランについても、堅調に上向きつつあると感じる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・路上でタクシーを止める客が多い。
		その他レジャー施設【イベントホール】（職員）	それ以外	・先週に福岡へ出張したところ、行き帰りの新幹線はほぼ満席で、ほとんどがサラリーマンであった。公務員同士の接待問題で、博多の歓楽街は客が減少していると聞いていたが、屋台はもちろん、飲食店街も遅くまで人であふれていた。ホテルも市内全域で満室状態であり、何とか確保できたものの、全国的なイベントがあれば常時満室となるようである。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・長期間売れ残っていた物件にも、購買希望がみられるケースが増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・土地の販売など、不動産の取引が好調に推移し、全体の契約が前年比で104%と増えている。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・10月の住宅展示場への来場数は、前年比で大幅増となっている。
	商店街（代表者）	単価の動き	・季節商品の売行きは順調であるが、単価が低い。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気の明るい材料が見当たらない。季節の変化による効果に期待している。	
	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・9月までに比べて、商談数が減っている。また、商談は年度末や来年度予算の話が多く、近いうちに成績につながるものが少ない。景気の上向き感を少し感じていたのだが、そうでもなさそうである。	
	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・今月は暑くも寒くもなく、雨も少ないなど、気候に恵まれた月であったにもかかわらず、客足が伸びなかった。特に、休日の落ち込みがひどく、近くの大型商業施設のにぎわいに比べると、大きな違いを感じた。ポイント特典やキャッシュバック抽選会などのイベントが毎月のように行われており、個人営業店ではかなわない。今月は小さな修理や電池交換などで、細々と過ごしている。	
	一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・10月と7月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は10月が86.6%で、7月が88.1%、関東は10月が94.9%で、7月が98.5%、中部は10月が99.6%で、7月が99.2%、中国は10月が119.5%で、7月が120.0%となり、各地区の平均は10月が93.8%、7月が97.6%となった。店舗によって好不調の波はあるものの、全国的にはほとんど変わりがない。	
	一般小売店〔酒〕（社員）	お客様の様子	・売上はほぼ前年並みで推移している。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は前半に行った販売促進策の効果があり、売上目標は達成できる予定である。ただし、好調な商品は限られており、一部のブランド商品や付加価値の高い高額商品、趣味や余暇関連の商品などである。インバウンドの需要を除くと、国内客の需要は決して良いとはいえない。特に、実用的な商品への支出を抑える傾向は、より一層強くなっている。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ファッション関連の動きが悪い。特に、秋物などのシーズン商品が売れていない。	
	百貨店（商品担当）	来客数の動き	・天候が安定し、防寒商材も動き出している。全体としては、インバウンド需要や高額品頼みではなく、比較的順調に推移している。ただし、来客数は伸びておらず、底堅さは感じられない。	
	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も先月と同じ傾向である。来客数は前年並みであるが、好天が続き、物産催事の売上やレジ客数、客単価は前年実績を上回っている。今月も目標を達成できそうな状況である。	
	百貨店（服飾品担当）	販売量の動き	・10月に入っても、依然として都心型店舗の売上の伸びは変わらず、中国の景気後退の影響はまだ感じられない。化粧品関連の売上は前年比で120%を超え、バッグ、財布といったアイテムも110%と堅調に推移している。この時期は、来年度の商材の展示会が多いが、各メーカーともインバウンド対策の商材が多い。特に、本国でも取り扱っているが、日本との価格差が激しいブランドに力を入れている。一方、国内消費は悪くないものの、販売数量はほぼ前年並みとなっている。インバウンドで込み合った店での買物に、やや気後れしていると感じられる。	
百貨店（マネージャー）	単価の動き	・特選衣料品や雑貨、高級時計などの高額品の売上は、前年比で2けた増となっている。また、免税対象品の拡大から今月で1年となるが、化粧品はインバウンド消費の盛況が続いており、前年比で3割増となった。その一方、中間層の消費は依然として鈍い状況が続いている。		



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・気温条件の良かった9月の消費は堅調な動きとなったが、ボリューム層を対象としたファッション関連は依然として苦戦している。低価格品の増加や、生活防衛意識の高まりが、ファッション関連の消費に悪影響を及ぼしている。全体的には、国内の個人消費のベースとなる給与所得の伸びが目立っていない。また、株式市場の低迷による資産効果も足踏みしており、インバウンド消費のみが好調という状況である。
		百貨店（商品担当）	来客数の動き	・インバウンド売上を中心に、来客数、売上共に堅調である。
		百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・今月前半は、前年に襲来した台風もなく順調に推移したが、中旬以降は苦戦し、結果としては前年並みとなった。化粧品や輸入ブランド品、宝飾品は好調であった一方、婦人服、紳士服などの衣料品の動きが良くない。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・中国の景気減速により、訪日外国人の売上の減少が懸念されたが、実際には好調を維持しており、インバウンド売上は前年比で2倍となっている。ただし、国内客の買物の中心である婦人服は、依然として前年割れが続いており、決して景気全体が良くなっているとはいえない。
		百貨店（営業企画）	販売量の動き	・婦人服や身の回り品などのファッション衣料、雑貨の動きが良くない。今月は前年並みとなっているが、昨年が台風の影響で落ち込んだことから、実質的にはマイナスである。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・10月の売上は前年比で増加を確保したものの、台風や雨などの天候不順の影響が少なかったほか、土曜日が1日多かったことを加味すると、消費は上向きとは言い難い。特に、平日の来客数の減少が響いている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・8～9月の天候不順や産地の災害などにより、農産物の相場が高騰しており、牛肉や加工食品などの値上げが続いている。牛肉から豚肉への需要シフトなどもあるが、結果として売上は順調となっている。ただし、大きな販促に客が集中する傾向が徐々に顕著になり、平日は伸び悩むことが増えている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・少し良い商品や、話題の商品、健康に関する商品は、今まで以上に活発な動きを示しているが、食料品や消耗雑貨の販売価格は厳しい。より細かな売場作りをしなければ、販売量は上がらない。ただし、健康関連の商材は少々高くても、客が探し出して購入する。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ぜいたく品はもちろん、食品を中心とした身の回り品に活発な動きがなく、依然として節約志向が強く感じられる。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上の前年比が横ばいである。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・気温の急激な低下や、農産物の相場高など、消費に影響しそうな事象は起きているが、基調としてはあまり変化が感じられない。
		スーパー（広報担当）	来客数の動き	・生鮮食品の相場高や、一般食品の仕入価格の値上がりによる客単価の上昇で、売上は確保できているが、来客数そのものに大きな動きはみられない。
		スーパー（社員）	販売量の動き	・昨年の後半から今年の夏まで、加工食品の価格上昇や生鮮相場の高止まりが続いたことが、売上の増加につながっていた。価格上昇が一段落した今は、客1人当たりの買上数量の増加が売上の好調を支えている。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・購買点数の増加がみられない。また、売上目標の達成は続いているが、同業他社に比べると利益率が低い。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・新道路の開通により、店の前の通行量が減少し、来客数がかかり減っている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・少し商品が動いてきているが、単価はまだ上がっていないように感じられる。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の財布のひもが固く、故障しない限り、家電製品を買換えない傾向が強いため、販売量が増えない。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・年末に向けた新築関係の相談が一段落した感がある。11月以降は、3月の引き渡し案件の話が増えてくることを期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・世の中が悪い方向へ進んでいる。客の表情に笑顔がなく、明るさがない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (営業企画)	来客数の動き	・来客数の下降線は大分緩やかになってきたが、過去の分を取り返すまでには、まだまだ時間がかかる。
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・販売数を維持できているのは、この数か月は新規開拓の宣伝や営業を積極的に行い、客からの購入が増えたからである。決して景気が良くなったからではない。
		その他専門店 [食品](経営者)	販売量の動き	・特に大きな変化はなく、安定している。
		その他専門店 [スポーツ用品](経理担当)	販売量の動き	・円安の進行が一段落し、仕入コストの動きは安定しつつある。
		その他専門店 [宝飾品](販売担当)	お客様の様子	・客の意思や目的に基づく購入が中心で、プラスアルファの商品を勧めても、購入に至らない。
		その他小売[インターネット通販](オペレーター)	販売量の動き	・受注の電話が増え、客単価も上がっている。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・連休前や連休中は忙しい日が続いたが、それ以外は特に大きな変化はない。
		一般レストラン (企画)	来客数の動き	・前年の台風の影響で、既存店の来客数は前年比で増えているが、その影響を除くと、ここ3か月はほぼ横ばいとなっている。一方、客単価については、徐々に前年比で低下傾向がみられる。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・引き続き好調を維持している。10～11月はそもそも繁忙期であるが、今年はかなり予約の受け入れを制限しなければならない。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・行楽シーズンに入り、来客数は増えてきたが、客単価が横ばいである。土産などの販売量が落ちている。
		都市型ホテル (支配人)	単価の動き	・宿泊単価は下がっているが、売上は減っていない。訪日客の目的が少し変わりつつあるようである。観光目的から、商品の仕入目的に変わってきており、客室単価も下がりつつある。全体的にみれば、景気が良くないとは思えない。
		都市型ホテル (総務担当)	単価の動き	・訪日客数は、依然として高レベルを保っており、客室の販売単価を押し上げている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・欧米向けなどの海外旅行は相変わらず低迷している。海外で買物を楽しみたい客にとって、円安は大きなマイナス材料となっている。特に、欧州方面は高いという感覚がある。一方、国内旅行が少し伸びており、全体としては昨年の水準とほぼ並んでいる。
		旅行代理店(店長)	お客様の様子	・客が増えているわけではないが、海外旅行の問い合わせや相談が増えてきた。ただし、すぐには申込につながらないケースが多い。また、国内旅行については動き自体が減っているほか、高額なプランの需要が少なくなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・この時期は天候も良く、外国人観光客の増加や学会の開催で、週後半にかけて乗客数が増加している。
		タクシー運転手 通信会社(経営者)	お客様の様子 お客様の様子	・流し営業での利用は横ばいで安定している。 ・小売業を中心に、販売低迷の声が聞かれる。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・サービスの申込状況はあまり変わっていないが、解約数は減少してきている。
		テーマパーク (職員)	販売量の動き	・施設への来場数に比例して、売上も増えているが、消費全体が上向いているというほどの変化はない。
		美容室(店員)	単価の動き	・3か月前と比べて変化がない。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル](エリア担当)	販売量の動き	・人気タイトルの有無に左右されやすいゲーム売上を除けば、コミックのレンタルや、カフェの導入により、売上は前年並みで順調に推移している。
		その他住宅投資 の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)	お客様の様子	・不動産価格には変動がみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	それ以外	・身の回りでは、日常的な消費の動きが悪くなっている。当社の主力商品の値段はどちらかといえば少し高いため、動かなくなっていると感じる。原料価格は昨年よりも20%以上高騰し、販売価格にも転嫁しきれない水準まできているなど、今後も厳しい状況が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売れていないの一言である。売上は前月比で95%、前年比で90%と悪い。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・少しずつ寒くなり、冬物衣料が動き出した。ただし、価格が昨年よりも少し上がっていることもあり、消費者の購入枚数が少なかったり、来店しても購入を見合わせるケースが増えているように感じる。消費者の口からも、物価は上がっているのに、給料が上がらないといった言葉が聞かれる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・当店では昨年10月に周年記念を迎えたため、売上が伸びた。今年はその翌年ということで、前年比マイナス3%と少し苦戦している。11月からはその影響がなくなるため、好不調の判断がしやすくなる。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・上半期は外国人観光客による売上が、1日平均で5千万円以上となり、売上が前年比で2けた増となった。この外国人売上が、9月は1日平均で4千万円、10月は国慶節による来店客数の増加があったにもかかわらず、1日平均で4千5百万円と減少傾向にある。富裕層の外商顧客の動きは好調を維持しているものの、景況としては悪化していると感じている。
		百貨店（販促担当）	販売量の動き	・今月は前月までと比較して、前年割れの項目が増加している。気温は例年よりも寒くなるのが少し早いものの、衣料品や雑貨の動きは鈍い。特に、前月以上に衣料品の不振が深刻で、前年を大きく割り込んでおり、売上全体を押し下げている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は上がっているが、来客数は減少しているなど、来店頻度の減少がうかがわれる。客はあらかじめ決めた金額だけ、まとめて購入している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・10月上旬に競合店がオープンし、売上は前年比で93%と7%ほどダウンしている。来客数も94%となっている。チラシの強化なども行い、対応策を打っているが、なかなか回復できていない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・プレミアム付商品券の効果がなくなってきた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・1品単価や買上点数は少し良くなっており、何とか客単価は上がっているが、来客数が減少している。正確には、来店客が減っているのではなく、来店頻度が減っており、売上はほぼ昨年並みである。特に、週末の売上の落ち込みが大きく、まとめ買いが減り、必要な分だけを必要な時に買いに来る傾向が強まっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・周辺の会社では残業が少なくなっているほか、夜のイトインの利用客も前年比で2割ぐらい減少している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気温は平年並みか、やや低めというプラス要因があったにもかかわらず、来客数は低調である。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・買い控えが続き、単価が低くなっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量が減少していることも問題であるが、そもそも客足が遠のいている。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・9月は秋の訪れが早く感じられ、秋物商品に動きがみられたが、10月は目立った動きがなく、逆に消費の停滞感が感じられる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・近隣の飲食店、塾などが相次いで閉店になり、人通りが少なくなっている。低価格のランチメニューを始めたところ、好評となるなど、やはり消費者の懐具合はまだ厳しいようである。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・国体などのイベントが続いた影響で、来客数の底上げとなっていたが、終了に伴って平常に戻る。	
	旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・海外の政情不安や難民問題などがマスコミによって報じられるなか、客からは、もう少し落ち着いてから行くといった声が聞かれる。	
	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,549円となり、3か月前の10,310円よりも下がっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（店長）	販売量の動き	・節約志向が強まり、化粧品のもとめ買いが減っている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・客からの問い合わせなどが減少してきている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・傾斜マンションの問題により、分譲マンションの購入をためらう客の増加が懸念される。企業も対応に追われることで、業界全体にマイナスの影響を及ぼす可能性がある。
	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・昨年や2年前に比べて来客数が減少している。また、来店しても買上点数が減っており、昨年よりも2～3割の減少がみられる。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・特に、生活家電とパソコンの落ち込みが大きい。今年は季節が早く秋めいた影響が出ているほか、タブレット型パソコンやスマートフォンの台頭による落ち込みが大きい。
		自動車備品販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数にあまり変化はないが、すぐには購入につながらないなど、様子見の動きが増えていると感じる。
企業動向関連 (近畿)	良く なっている	タクシー運転手	競争相手の様子	・企業からのタクシー利用の注文が激減している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先週に大型案件の受注が確定した。この注文を中心として、当社を取り巻く環境は良くなっている。
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月は夏日もあったが、後半に少し冷え込んできたせいもあり、製品の荷動きは良くなっている。競合他社では、秋に向けて製品を値上げした企業も多いが、当社は販売価格を維持しており、少し有利な状況にあることも影響している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年の第1、第2四半期に比べると、緩やかに景気は回復している。ただし、すっきりとした回復ではなく、足踏みの動きもみられる。東アジアや東南アジアの景気はやや良い一方、国内景気は芳しくない。一方、EUは製品の取引基準が厳しく、当社の製品の取引はほぼ不可能になっている。
	変わらない	輸送業（営業所長）	受注価格や販売価格の動き	・少しずつであるが、新規案件が増えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・クライアントからの問い合わせが増え、受注も昨年に比べて若干増えてきている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月上旬は中国の国慶節もあり、市内中心部や他府県の観光名所も、多くの中国人観光客でにぎわった。また、週末には各地で大規模なスポーツイベントが開催されたほか、天候に恵まれたこともあり、家族連れの行楽客が非常に多くなっている。
		食料品製造業（経理担当）	取引先の様子	・このところは貿易関係が伸びている。しかし国内は振るわず、前年比で2.9%増となっている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・気温の低下によって飲料水の売上も減少している。10月末のハロウィンイベントに向けての商品を出しても、消費者の反応は今一つである。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・需要期に入っているが、全体に低調である。
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	取引先の様子	・売上が好調な取引先よりも、不調な取引先の方が多いように感じる。	
	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品用や建築用製品の販売量に変化はない。	
	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・来年度の新商品の引き合いが決まり始めており、雰囲気は悪くない。	
	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・特に大きな変化もなく推移しているが、ここへきて下半期の計画実行のためか、多少の荷動きが出てきている。	
	金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・10月になって、中国、四国地方を担当していた協力会社が倒産し、関西担当の当社が生産、出荷を代替することになった。生産が追いつかないため、二交替制にして対応しているが、この状況がいつまで続くか分からないため、人員の増員もできない。結果として、残業によって対応する予定である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・メーカーの間では、国内での遊休設備を動かす話が増えつつあるが、利益は出ていない。	
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・引き合いはあるものの、受注には至らない。大手競合先との価格競争では、どうしても不利に立たされる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		その他製造業 〔事務用品〕 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・例年と変わらない動きとなっている。		
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらないが、問い合わせなどが少し増えてきている。客も忙しい様子である。		
		建設業(経営者)	競争相手の様子	・職種によっては技能労務者不足が深刻化している。建設資材関係の納期の問題もあり、決められた工期での価格競争が続いている。		
		建設業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・問い合わせや見積案件が多少は増えてきた気がするものの、相変わらず単価は厳しく、受注につながる確率は低い。		
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・配達件数が減っている。		
		通信業(管理担当)	それ以外	・物価が安くならない。		
		金融業〔投資運用業〕(代表)	それ以外	・今は上向く材料も、下向く大きな懸念もない。		
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・今年に入り、取引先の状況に変化がみられる。仕事の受注はあるが、利益率が低下している。		
		不動産業(営業担当)	取引先の様子	・神戸からの企業の撤退が続いている。それに伴って事務所の需要が減少し、賃料の低下や空室率の上昇につながっている。社宅の需要も減っているほか、賃料も、居住用も含めて上がらない状態が続いている。		
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・関西での広告出稿は大きな変化がないように感じる。		
		コピーサービス業(店長)	受注量や販売量の動き	・良くも悪くも受注量に変化がない。		
		その他非製造業 〔機械器具卸〕 (経営者)	取引先の様子	・景気の動向に変化はみられない。		
		やや悪くなっている		繊維工業(総務担当)	取引先の様子	・消費者向けの催事にマンネリ感があるのか、新規での集客が思わしくないため、販売額が前年を下回っている。これまでは問屋への販売で済んでいたものが、各地での催事に出向いていくことが増え、経費が増えている。
				化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・水害などの影響から、各自治体が予算の執行を遅らせており、受注額が落ち込んでいる。
電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き			・受注が伸びない。		
新聞販売店〔広告〕(店主)	受注量や販売量の動き			・購読数が伸び悩んでおり、折込件数も減少している。		
経営コンサルタント	それ以外			・身の回りの中小零細メーカーや小売店の様子を見ると、シャッターが下りている店が増え、来客数や客単価が悪化している。		
その他サービス 〔自動車修理〕 (経営者)	受注量や販売量の動き			・10月に入って仕事が暇になっている。		
その他非製造業 〔商社〕(営業担当)	取引先の様子			・案件数が激減しているほか、単価も下がり、利益が出ていない。		
悪くなっている				金属製品製造業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・大手企業向けの鋼材価格の値下げが決まったため、販売価格が見直されている。一方で我々のような中小企業に対しては、鋼材価格を据え置いたままの状態が続いており、かなり採算が悪化している。
雇用 関連 (近畿)	良く なっている	-	-	-		
		やや良く なっている	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・長期的な求人が新たに増えてきている。直近の有効求人倍率も1.26倍に上昇しており、人材の確保が難しくなってきた。	
	変わらない	新聞社〔求人広告〕(管理担当)	求人数の動き	・新聞求人は今月も安定しており、求人数をみる限り、景気は上向いている。		
		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・大きなトレンドでは、右肩上がりの傾向に変化はない。雇用面では神経質な動きが出始めており、IT関連企業以外は派遣社員を直接雇用にする動きがみられる。今後は、IT関連企業の動きがどうなるかがポイントである。		
		人材派遣会社(営業担当)	求職者数の動き	・労働者派遣法の改正により、求職者間で不安感が増している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・労働者派遣法の改正が影響してか、高スキルの高齢者による登録が増えている。	
		人材派遣会社（役員）	採用者数の動き	・労働者派遣法の改正により、企業が派遣社員を使いやすくなったため、まだ1か月では断定できないが、求人数は増加している。働き方の多様化や、政府が掲げている1億総活躍社会に貢献すればよいが、今回の改定は派遣会社の負担が大きく、どのような影響が出るのかは未知数である。	
		アウトソーシング企業（管理担当）	それ以外	・今月は、雑貨の加工依頼が一度あっただけで暇である。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・広告出稿の推移をみると、3か月前とほぼ変わらず、関西は悪いままである。ただし、下げ止まりの動きは感じる。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・チェーン展開している飲食店から、各店舗の求人が大量にあったが、それを除けば前年比で4.8%の増加となっている。社会福祉や医療関連で増えているほか、運輸業では観光需要もあり、旅客運送の求人が大幅に増加した。その半面、不動産・物品賃貸業や専門技術サービス業などでは減少がみられる。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で増加傾向が続き、新規求職者数は減少傾向が続いているため、有効求人倍率は改善が続いている。一方、新規求人に占める正社員求人の割合は、依然として50%を下回っており、景気が回復しているとは言い難い。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業の新規求人数は増加が続いていたが、ここへきて一服感がみられる。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新卒採用では、採用枠を充足できていない企業が多くみられる。	
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・中小企業の採用担当者からは、来年度入社の採用予定人数が確保できていないが、単に景気が良くなり、採用数が増えたからではないという話をよく聞く。	
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・毎日、繁華街を通り抜けて通勤しているが、人出が少し多くなった印象があり、インバウンドも確かに増えている。ただし、インバウンドからは元気の良さを感じられる一方、日本人には今一つ元気がない。	
		やや悪くなっている	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設の日雇い求人数がますます減少している。当地域の日雇い市場自体が縮小傾向にあるほか、工事案件や作業員の関東へのシフトも進んでいる。
		悪くなっている	-	-	-

## 8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (中国)	良く なっている  やや良く なっている	ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・気候もよく例年に比べ雨が少なかったため、入場者数が増加している。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	お客様の様子	・中国横断自動車道「尾道松江線」全通の影響で、山陰からの客が増え売上が伸びている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・美術品や宝飾品の売上が良くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・野菜価格が高騰しており、客単価が上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数、売上ともに好調である。チケット販売やスマートフォン用ゲームの売上が伸び、全体を押し上げている。弁当やパンといった食品の動きも良い。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・中食商品を中心に販売量はやや上向きである。
		コンビニ（副地域ブロック長）	販売量の動き	・コンビニに関しては、前年比での売上高が改善している。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・来客数が増加している。
		乗用車販売店（営業担当）	それ以外	・9月決算時に臨時賞与が出たため、会社全体で利益も改善している模様である。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・客単価が増加傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 【ファッション 雑貨】（従業員）	お客様の様子	・例年に比べてハロウィン関係の動きが活発で、客の反応が非常に良い。結婚式も多く、装飾品の動きが良く、今月は売上目標をクリアしている。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・プレミアム付商品券の普及が進み、景気が少し上向いている。
		一般レストラン （店長）	来客数の動き	・9月の大型連休の後も来客数が増加しているが、それが一時的なものではなく、10月に入ってからも同様の状態を維持している。
		その他飲食 【サービスエリア内レストラン】（店長）	来客数の動き	・観光シーズンで修学旅行生の利用が増えている。
		タクシー運転手	単価の動き	・単価は低いが乗客数は増えており、売上は前年の102%である。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・加入申込件数が引き続き好調である。
		テーマパーク （営業担当）	来客数の動き	・好天にも恵まれ、個人客を中心に来園者数が増えている。団体は相変わらず低調だが個人客でカバーできている。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・9月末から10月初旬にかけてG1競争で売上が確保できている。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・気候が良くなり、イベントへの参加や展示場への来場など客の動きが活発化してきている。
		住宅販売会社 （営業担当）	来客数の動き	・問い合わせが急激に増えるとともに、来場者の動向から住宅購入の意欲が感じられる。消費税率引上げも視野に入っている様子で、今後も来場者数が増えることが想定される。
	変わらない	商店街（理事）	来客数の動き	・消費動向が変わったのか、客の購買意欲がないのか、根本的な原因は不明であるが、商店街に来る客が減少しており、売上も良くない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・以前と同じように来客数は推移している。あまり変わりがない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・相対的に景気はやや悪いが、店舗によっては高額品等の販売で前年度の売上を確保している店舗もある。
		一般小売店 【靴】（経営者）	単価の動き	・最初はプレミアム付商品券の利用が目立っていたが、今月は止まっている。
		一般小売店【食品】（経営者）	販売量の動き	・9月上旬から夏物商品の売上が減少し、秋物商品の販売も不調である。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・10月の売上はほぼ前年並みの見込みである。物産展、婦人服の売上がやや期待はずれであった。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・今月は前年より土曜日が1日増えて好条件となったため、前年実績をクリアできそうであるが、予算には若干届かない見込みである。来客数は前年比99%であるのに対し客単価は101%である。美術、時計、宝飾といった高額商品が好調なため、ファッションカテゴリーの不振をカバーしている状況である。広範な景気回復につながっている様子は全く感じられない。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・紳士婦人を中心に秋物の動きは上向いてきており、前年苦戦したコートも復活してきている。しかしヤング中心の動きであり、ミセスゾーンは厳しい状況で推移している。また宝飾についても、特選系は好調だが、一般ジュエリーは低迷するなど、明暗が顕著であり、以前よりも付加価値が求められている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・衣料品は前半動きがよかったものの、中旬以降気温が上昇したため動きが鈍っている。月間トータルでは前年並みとなっている一方で、食料品は安定している。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・インポートブランドや高額な宝飾品、美術品は順調に推移している。高額品は購入するが、生活必需品を最小限に抑える客の傾向に変化はない。衣料品関係は厳しい状況が続いているなかで、ヒットアイテムの売上が順調で、今後も期待できる。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月は「ねんりんピック」という特別なイベントがあり、その期間を中心に大きく売上が低下している。客の目線が物より事に向いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数に変化がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客の買上点数が伸びておらず、安くても必要ない物は購入しない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・売上、客単価とも横ばい状態である。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・商品の単価上昇に反比例するかのようには販売点数が落ちている。来客数が前年と変わらないため、売上高は維持しているものの販売点数が伸びないのは厳しい。
		スーパー（管理担当）	来客数の動き	・客数・客単価・販売量ともにここ数か月あまり大きな変化が見られず、景気向上感はない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・客から景気が良くなっているという話は聞くものの、売上には反映されていない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・前年までは太陽光発電関係の売上のウエイトが高かったが、今年はそれをカバーするだけのアイテムがなく、苦勞している。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・イベントがあっても盛り上がらない。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年並みの水準まで盛り返している。特に平日は前年の110%で推移しているが、安定した収益を期待できるサービス利用客が前年の75%である。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・販売量は一定レベルで推移しているが、営業費は増加傾向にあることが懸念材料である。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・景気動向が不安定な今、客は車の買換えを必要最小限に留めている。
		その他専門店【時計】（経営者）	来客数の動き	・高額品消費は限られた客層のみであり、一般的には必要な物以外は購買につながらない。
		その他専門店【海産物】（経営者）	お客様の様子	・10月後半になって多少来客数は増えてきているが、土産物の購買意欲につながらない。
		その他小売【ショッピングセンター】（所長）	来客数の動き	・3か前と比べると変わらない状況であるが、前年同期と比べると来客数が減少しており、特に飲食が5%前後減少傾向にある。
		その他小売【ショッピングセンター】（運営担当）	お客様の様子	・来客数はイベント等があればある程度伸びるが、平日が不振なため、昨年と比べて伸びがない。飲食等日常の外出の際に利用するテナントではある程度の売上を確保できているが、高額品や子供用品関係は伸び悩んでいる。子供に金のかかる30歳代から40歳代に収入の改善がみられないのもその要因となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日は女性の来客数が増えている。法人関係の利用は動きがないが、土日には個人の来客数がまずまずである。
		一般レストラン（外食事業担当）	来客数の動き	・8～10月の売上は前年の103～105%で推移しているが、来客数は95～97%が続いている。特にランチタイムの来客数が85～89%でありあまり良くない。宴会予約の減少も目立っており、予算が決まっている食べ放題に移行する傾向にある。食べ放題の構成比が5%上昇しており、客は金の使い方をよく考えている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・最近景気が良くなっている気配が全くなく、来客数にも変化が見られない。
		観光型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・相変わらず安い商品から売れていく傾向にある。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・客室単価が前年比同水準で推移している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊は秋の観光シーズンに伴う多客時期でもあり、個人客の需要は好調である。平日にはインバウンド団体客に加え、ビジネス需要も活発で、夏の旅行シーズンと変わらない好調良好な状況にある。その一方でレストランの集客は苦戦しており、単価とともに一般消費の伸び悩みもマイナス要因としてある。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊の稼働率は若干低下しているものの平均客室単価が高くなっている。レストランは1人当たりの単価が若干高くなっている。
		都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・宿泊販売室数は3か月前と比較して変わらないが、ビジネス客層に加えて、秋の観光シーズンに入った影響で宿泊人数が増加したことから、客室単価が微増で推移している。ただし昨年は出雲大社遷宮の影響も継続していたこともあり、対前年比はマイナスとなっている。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・景気が良いと言われているが、実際には変化が表れていない。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・営業対応の感触として、悪くなく、落ち着いている。
		通信会社（広報担当）	販売量の動き	・新商品等の販売が始まっているが、その影響はほとんどなく販売数は伸び悩んでいる。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子に変化が見られない。
		テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・前年同月比で来客数や商品販売高に変動がない。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・秋のイベントも終わり、来客数の減少が懸念されたが、天候の良い日が続いたため、週末を中心に来客数が多くなっている。
		美容室（経営者）	それ以外	・商店街の来客数が減少し、売上も良くない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客は給料に伸びがなく連休で出費がかさみ美容関係に金を使わない。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・業者間の受注格差が大きい模様であり、大工の施工予定を確認したところ、月後半に繁忙になる者も手待ちの者もともに多く、現時点では状況が上向いているとは言えない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・低価格帯への要望ばかり聞こえる。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・民間工事の動きが悪く、最近客から新築工事、リフォーム工事共に相談がない。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・前回の消費税率引上げから、戸建て住宅の引き合いが減った状態が続いている。次の消費税率引上げの様子見している状況がうかがえる。
		住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・客からの問い合わせ件数や契約実績から、例年とさほど変わらない状況である。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・相変わらず客の財布のひもが固く、必要以上に買物をしていない。今必要な物だけを購入するようになっている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・気温が下がらず、秋冬物の出足が鈍い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10～11月は観光シーズンであるが、今年は平日の来客数が極端に少ない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・例年であれば年度後半の10月は企業の動きが出るが、今年はゴム印や印鑑の注文が少ない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年同月比で売上は71%、来客数は73%と前月を下回っている。これは8月末で2店舗退店した影響も大きいですが、既存店も依然として低迷している。前年同月を上回っている店舗は15%しかなく、大きく割り込んでいる。ヘアサロン、エステ等のサービス系は変わらず順調であるが、飲食系は陰りを見せはじめている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は回復傾向にあるが、1人当たりの買上点数が低下している。特に生鮮、食肉、水産、惣菜の落ち込みが激しく、日持ちしない商品の買い控えや買い回りがあろうである。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客は求めていた商品がなかった場合、以前であればせっかく足を運んだのだからと、何かを購入することが多かったが、最近ではそのまま帰ることが多くなっている。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・メーカーの値上げによる価格上昇により、既存店売上は前年を上回っているが、節約により買上点数が前年を下回っている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・雨不足のため野菜の価格が高騰するとともに、乳製品が値上がりし、バターは品切れが続くなど、主婦にとって不安要素が一杯である。大都市圏では給料やボーナスが上昇しているとのニュースが流れるが、地方との格差が広がるばかりである。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・稲刈り作業の時期なので、来客数は減少している。
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・来客数にあまり変化がないが、商品を購入する客の割合が低下している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・10月の販売量は前年比85%と大変厳しい状況となっており、この状況は今期変わっていない。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・土日祝日の来客数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・客の様子に活気はなく、商品を購入する意欲がない。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・最近の食品価格の上昇もあり、外食単価の上昇にも一定の理解が得られたため、1人当たりの客単価が上昇している。ただし来客数は依然として減少傾向にあるため、今後も売上の減少が予測される。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・売上は先月より鈍化している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客数が増えているが、朝夕の売上は良くない。
	悪く なっている	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・消費税率上げの影響で物価が上がっているのに客の収入が上がっていないことが影響している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数の減少に加え成約率や購入単価が低下している。客はなかなか購入を決断せず、決めたとしても高付加価値商品ではなく必要最低限の機能の商品になってしまう。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・行楽シーズンや運動会シーズンに入り、来客数や販売件数が減少している。ボーナスまでは出費を控えるとの声も多く聞かれるようになっている。
		自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・最近では当社に限らず周辺の同業他社も来客数が減少している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上が前年比50%で最悪である。少子高齢化の歯止めとともに人口増加対策をしなければ、地方は衰退する一方である。
		企業 動向 関連  (中国)	良くなっている	輸送用機械器具 製造業（経営者）
やや良くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外		・9月と6月を比較すると、水揚げ数量は115tの減少、水揚げ金額は2億8,900万円の増加である。減少理由は大中小型巻き網漁の減少で、増加理由は沖合底引き網漁とイカ釣り漁、定置網漁の増加である。9月単月の前年比は、水揚げ数量は260tの減少で前年の79.1%、水揚げ金額は470万円の減少で前年の99%である。減少理由は沖合底引き網漁、大中小型巻き網漁、イカ釣り漁が減少したためである。
変わらない		窯業・土石製品 製造業（総務経 理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向けの受注が回復し生産量も回復しつつあるため、残業体制で対応している。鉄鋼向けの大口案件作業への着手も重なり多忙となっている。
		輸送業（支店 長）	受注量や販売量の動き	・小口、会社関係、個人関係の売上が伸びており、特に電子商取引の売上の伸びは顕著である。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客からの受注量が増加傾向にある。販売促進拡大シーズンにある中で総合的に見ても上向きで良くなっている。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べて特に動きに変動がない状態である。
		繊維工業（経営管理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量に目立った変化はない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予算に対して受注額がやや低下しているため、受注を掘り起こして獲得している状況にある。冬場は厳しい状況を想定していたが、今月の受注額を見ると予算に近い水準にある。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・特定の得意先からの受注が芳しくなく、受注量は3か月前と比べて全体で30%低下している。海外ではアメリカや中国向け案件の低迷、国内では補助金需要が落ちてきたことが影響している。
		一般機械器具製造業（経理財務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が上昇する兆しが見えない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注内示量がわずかな減産となっている。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	それ以外	
建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・技術者の稼働が目一杯の状況が続く、受注を控えている状況が続いている。		
建設業（総務担当）	それ以外		・大手建設会社のデータ改ざん問題が影響してきそうな気配がある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出入、国内ともに荷動きに大きな変動なく推移している。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・情報通信に関連した来年度予算の引き合いが集中する時期にあるものの、2～3年後の中長期での投資検討によるものが多く、短期的な売上の見込みが厳しくなっている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・マイナンバー関連需要による若干の受注量の伸びはあるが、景況感の改善にはまだまだという状況である。
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの業況は引き続き好調である。完成車メーカーの環境対応車の販売が堅調なため、製造現場は1～2時間の残業と月に2回程度の土曜出勤で高操業を継続している。コスト削減効果もあり収益は過去最高水準の企業が多数ある。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・取引先の飲食店からのヒアリングによると、売上高は3か月前と比べてあまり変わっていない。5年前と比べると明らかに売上高は低下しており、客単価も低下している。しかしながら、「安かろう悪かろう」を選択する雰囲気は少しずつ和らいでおり、徐々に「高くても良いものを」という客層が増えている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数がほぼ横ばいで推移している。
	やや悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・スーパーへの卸関係の売上が良くない。
		化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・主力商品の一つである苛性ソーダにおいて、中国経済の減速、供給過剰感により価格競争が激しく、販売価格の引き下げ対応を余儀なくされている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・輸入鋼材の値下げ基調が継続しており、市況の底が見えない状況にある。その一方で需要期に入り、鋼材需要の上ブレに期待感はあるものの、本格的な荷動きには至っていない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ちている事業があり、落込み量の大きい事業領域もある。一方で下期の受注見込が上方修正されている事業もあり、全体としてやや悪化の状況である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・前年比での商談件数の減少傾向が懸念材料であるとともに、取引先企業からは設備投資に積極性が感じられず、当面従来の価格競争に拍車がかかることが予測される。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・小売関連の売上があまり振るわない。首都圏ではインパウンドによる爆買い現象がニュースをにぎわしているが、地方にあまり恩恵はない。周りの消費動向も良いとは言えないことに加え、建設業でも公共工事があまり出でおらず、期待していたほどの数字は上がっていない。
	悪くなっている	その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内景気の低迷、円安、海外人件費の高騰等当社にとって不利な条件がそろい過ぎている。そのため国内景気の低迷による受注減、円安と海外人件費の高騰による材料費の高騰、売買価格の据置により今後ますます厳しい状況が続く。
雇用 関連 (中国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・10月に入り求人に対する求職者の反応が活発になってきている。ただし短時間、短期間の求人に対する反応のみが良い傾向にある。今後求人企業がどれだけ求職者に歩み寄れるか、長期間、長時間に対してどれだけ歩み寄れるかが課題となる。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	求人数の動き	・新卒採用時期の変更に伴う大きな需要の変化はなく、引き続き求人ニーズは高い。
	変わらない	民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・有効求人倍率が高止まりし、複数候補の求人から選択できる環境が続いている。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・例年通り年末を目標とした繁忙対応の求人と、マイナンバー関連の求人により、対応し切れない求人が大幅に増加している。
人材派遣会社（経営企画担当）	周辺企業の様子	・10月に入り周辺企業はじめ派遣事業各社が参加する労働局による労働者派遣法改正の説明会が開催され、各社の事業概要が報告されている。業務への影響についてはまだ大きな変化は見られず、派遣元は説明会を受け各企業への細やかなフォローが求められている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・大手企業はある程度長期スパンで安定的な採用人数を決定しているため、大幅に採用数を増やすことはないが、中小企業の採用人数は自社の売上、出店規模、景気などに大きく影響されており、中小企業を中心に考えると全体的に採用人数は上向きである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・人手不足の声は依然としてよく聞くが、相変わらず土木建設関係が主体である。サービス業、小売業界も同様の声は多いが、あくまでアルバイト、パートが中心である。一部事業所で時給を引き上げており、少しでも良い条件の企業に動くフリーターが目立ち、その穴埋めの求人を中心となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・業種によって景況に差が生じている。建設業の活況は継続しているが、自動車販売、住宅販売は消費税増税のあった昨年の落ち込み状態から回復しきれておらず、低水準な状況となっている。百貨店も前年レベルからは脱しているものの、主力の衣料品が低迷しており、先行きは良くない。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人は、菓子製造や乳製品製造から大量求人があった製造業が前年同月比で8割増となった一方、卸売・小売業や宿泊業・飲食サービス業が振るわなかったことから、求人全体では1割減となった。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人は前年同月と比較してほぼ同水準であり、有効求人についても同様である。求職者数は減少していることから、求人倍率は前年同月を上回り、人手不足の状況が続いている。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	求人数の動き	・あまり好調という感じがなくなっている。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	周辺企業の様子	・小規模な事業所で倒産が出ており、景気が悪くなっている。
やや悪くなっている	-	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	-

#### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月には週末毎に中心部の公園でイベントが開催され、また、外国客船が2回入港したこともあり、商店街にかなりの人が流れてきた。大きな売上には繋がらなかったものの、にぎわいを創出し、特に飲食を中心に、売上が増加した。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・中国経済が落ち着きを取り戻しつつあり、レジャー関連や貴金属は好調に推移している。プレミアム付商品券の底上げ効果も続いており、微増ではあるが全体で前年を上回っている。ただ、飲食や若い人の消費は厳しさが抜けていない。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・衣料品や雑貨は計画未達もみられるが、食品と大型専門店の好調が継続しており、物産展も大きく伸びている。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・今月は天候に恵まれ、台風の影響もなく、久しぶりに来客数が増加し、売上も順調である。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・9月の大型連休、天候気温に恵まれて、衣料品関係については、大きくは伸びていないものの、そこそこ良かった。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊客など利用人員が若干増加基調にある。ただ、客単価は上昇していないことが懸念材料として残る。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は予約が前年を上回っている。特に入場者数が前年を上回っており、2～3か月前と比べても全体的に増えている。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築の単価が上昇傾向にある。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・10月は閑散期に当たるが、顧客数はやや増加した。ただし、客単価が減少していることから、売上は変動の無い結果となった。
百貨店（営業担当）		お客様の様子	・暖かい日が続き、冬物の動きが鈍い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・売上は前年を上回って推移しているが、来店客数が伸びていない。商品単価が上昇していることを考慮すれば厳しい状況であることに変わりはない。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・売上、客数、客単価ともにほぼ前年並みとなっており、競合が増加しているなかで健闘している。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温に大きく左右されるが、今のところ変化は見られない。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・高単価商品の売上が低迷している一方で、低単価商品の売上は上がっており、全体では前年並みで推移している。気温が高めに推移している為、重衣料の動きが悪く、客単価が低迷しており、内容としては厳しくなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・ここ数か月売れる商品は変わっても、総合的な販売量は横ばい状態が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・10月の実勢は、良くもなく悪くもなく、新車販売は低迷を続けている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・カー用品、自動車保険等、自動車周辺の商品購入にもインターネットを活用する客が増加している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・軽自動車市場は、4月以降の落ち込みが回復傾向に無い。来店客数、受注台数ともに激減している。9月に新型車を発表したが、動きが鈍い。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・10月は新車受注、登録数ともに前年並み。四国の各販売店においても、前年と比べてあまり伸びていない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・気温の低下とともに来店客数が若干伸びているように感じられるが、強い動きではない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・売上の前年比は3か月前とほとんど変わらない。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・宿泊単価が上昇したわけでもないが、宴会等では、それなりの予算を組んでやっていただく方が増えてきている。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・国内個人旅行の申込は堅調であるが、海外個人旅行の申込状況が相変わらず不調である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今秋は遍路客が少なく、街中でも、夜に飲みに出る人が少ない為、人通りも少なく、長距離も出ないということで、良くはなっていない。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・10月は販売量が少なくなる時期で、今年もほぼ例年同様の動きとなっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・個人消費が上向いている実感はない。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・高額商品の問い合わせ数は先月とほぼ変わらない。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・10月の売上は、前月比149%、3か月前比132%、前年比153%とそれぞれ大幅に増加している。これは、開催日数、曜日の関係による影響が大きい。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・たまに新規の来店があるが、さほど変わらない。
		やや悪くなっている		商店街（代表者）
一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き			・夜の繁華街の人出は少なく、来客数も少なかった。
スーパー（店長）	販売量の動き			・ポイントのサービス品は売上が伸長はするが、翌日には下がり、連続してプラスは難しい。お得感が無いと購入意思が弱い。
コンビニ（店長）	販売量の動き			・観光シーズンに入り、9月の大型連休や通常の連休、地域のイベントなどの行事が有り、天気も良好であったが、今月も前年割れとなっている。
コンビニ（商品担当）	販売量の動き			・今夏以降、商品のセール等を実施しても、以前ほど伸び率が上がらない状況が続いている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き			・3か月前に比べ、来客数の動きがかなり鈍い。秋冬物も入荷しているが、気温が高いこともあり、アウトター類が動かない。商店街の通行客や来客数を見ても、良くなっているとは思えない状況。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・売上や、お客様のお話の状態から判断した。また、9月の大型連休等でお金を使っており、小遣いがないという答えもあった。
	悪くなっている	一般小売店 [ 酒 ] (販売担当)	お客様の様子	・外食控えなのか、繁華街への客足が少なくなっている。
		一般小売店 [ 書籍 ] (営業担当)	販売量の動き	・単価の高いコンサートチケットの販売が低迷。前年に比べ、チケット売上が大きく下落している。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・相変わらず来客数、客単価共に低い水準が続いている。
企業動向関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	鉄鋼業 (総務部長)	受注量や販売量の動き	・受注量は減少傾向だが、生産量及び売上量はまずまず。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・再生エネルギー関連設備が主力の当社では、注文が後を絶たない状況にあり、今後も継続する見込み。
		輸送業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・販売価格などが安定している。
	変わらない	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・首都圏や京阪神などの都市部は全般的に好況感があるが、地方都市は厳しい状態が続いている。この傾向は今後、ますます格差が出来るものと思われ、特に地方都市は人口減少、高齢化などの影響、それに加えて、小売チェーン店の出店ラッシュにより、ますます地元資本の小売店は厳しいと予測される。
		木材木製品製造業	受注量や販売量の動き	・7月以降の生産量はほぼ横ばい。先々の見通しも受注残から推測すると12月ごろまでは現在の状態が続く見込みで、大きな山は見込めない。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・総じて大きな変化はない。
		建設会社 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・民間工事受注量は増加しているが、販売量は横ばいで、景気は変わっていない。
		建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事ともに受注が伸びない。
		通信業 (部長)	受注量や販売量の動き	・10月に入っても受注量等に大きな変化無し。
		金融業 (副支店長)	取引先の様子	・以前に比べて、資金需要が少なくなってきた。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算書、ならびに試算表を見ると、前年とほとんど変わりがなく、赤字法人は全体の3割程度という状況が続いている。
	やや悪くなっている	建設業 (経営者)	競争相手の様子	・公共事業の発注量が対前年度比で減少していることに加え、事業内容が偏っているため、当該分野を得意とする会社とそうでない会社で、仕事量の格差が大きくなっている。全体としては、総量が減少している。
		輸送業 (支店長)	取引先の様子	・顧客の商業貨物の出荷量の減少などが散見される。
		輸送業 (営業)	競争相手の様子	・景気低迷による業績悪化を受け、車両への投資を控え、減車等の経費節減を余儀なくされた中小事業者が多い中、慢性化している運転手不足も相まって、複数の同業者との提携強化で受注力を維持しようとする動きが以前にも増して顕著となっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社 (営業)	求職者数の動き	・今年度上期後半より、求職者の数が増加し始め、求人企業とのマッチング率が緩やかに増加している。
		職業安定所	それ以外	・9月の月間有効求人倍率は、1.19倍で3か月前より0.09ポイント改善している。
		民間職業紹介機関 (所長)	求人数の動き	・中小企業を中心に、採用数に達していない企業が多く、8月以降も求人との問い合わせが継続的にある。求人数は前年と比べて3割増増加しており、来年度の求人問合せも時々ある。
		学校 [ 大学 ] (就職担当)	求人数の動き	・大手企業からの求人が見られる。
	変わらない	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・有効求人倍率が少しずつ下がってきており、派遣登録に来社する登録者もやや目減りしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・どの業種も景況感は悪くなさそうに見えるが、人手不足による伸び悩みや、受注をこなせない、人件費・材料費の高騰などにより、景気は横ばい。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・過去最高の有効求人倍率が続いているが、求人条件に変化は無く、非正規雇用求人が半数近くを占めている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・中国の不動産投資、公共事業抑制等によって、建設機械の販売台数が大幅に減少していることを受け、管内建設機械用ハーネス製造会社が雇用調整を余儀なくされている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・労働者派遣法の改正などで、企業が採用に慎重になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新聞の求人広告は前年比110%以上を維持しており「人」の需要は多い。しかし、営業的な広告は今月に入って鈍化基調。特に販売意欲が示されるチラシ折込や各種印刷物の発注が減っている。新規開店のオープン広告もほとんど無く、事業主の意欲が感じられない。
	悪くなっている	-	-	-

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	良く なっている			
	やや良くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・当社の取引先は、景気が良い会社と悪い会社の差が極端になっている。やや良くなっていると回答した理由は景気が上昇している会社からの注文が多かったためである。他は平年通りであるため、その分のみ上がったとみてよい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・これまで、客の来店と購買が結び付かない状況が続いたが、今は来店と購買が比例する形で結びついている。客が購買意欲をもつようになった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入り好天続きで来客数が増加している。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・前月と比べて、衣料品及びファッション雑貨の動きが良くなってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・売上は好調に推移している。客数も前年比約102%で推移している。プレミアム付商品券の効果もあり売上の問題は無い。生鮮食品においても売上金額は好調に推移しており、特に野菜は相場高により売上金額が大幅に伸長している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は、客が価格高騰に慣れてきて、販売点数が伸びている。確実に売上があがるようになってきた。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・比較的金額が高くブランドイメージのよい商品の動きが良くなっている。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・売上高は、対前年比増である。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・不動産業界の客に聞くと、非常に活況であるという話である。
		ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・10月は気温が低めに推移したこともあり、風邪薬やスキンケア商品など冬物の季節商材の販売が好調である。また、来店客数も購入点数も増えている。インバウンド客の来店も引き続き堅調だ。プレミアム付商品券の効果も、一定程度あったものと考えられる。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・プレミアム付宿泊券発行の影響が大きい。
		観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・相変わらず、宿泊観光客数は伸び続けている。長崎は世界産業遺産登録に続き、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録が控えているため、今後も伸びていくと予想される。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・毎年、この時期はハイシーズンなので、上向きになることは当たり前だと考えられる。
	都市型ホテル（販売担当）	それ以外	・宿泊、婚礼、一般宴会、レストランのいずれも好調を維持している。売上高は前年比119%ぐらいで上期を終了する予定である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・この1年間、ずっと団体の予約がきちんと入り、インバウンドが単価を上げている。その効果が続いている。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・地域の客の入場者数はなかなか上がらないが、地域外からの客、特に企業の褒賞旅行や社員旅行などでゴルフをプレーする客が増えつつある。当地域は野菜の高騰で農家は潤っているがサービス業は厳しく、ゴルフのプレー回数も減っている。厳しい状況が続いているが、地域外からの客が多いということで少しは明るい点もある。
	変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・売上は3か月前と同じような推移をする。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・隣接する商店街が年間を通して大工事をしている影響もあり、来客数が減っている。食堂が3店ほど閉店した。まちづくりをもっと見直していく必要がある。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・地方の商店街では、中国人観光客の爆買いによる売上は期待できない。高齢者の客が多い商店街では、客は所得の増加が見込めず、生活必需品を買いつのが精一杯である。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数は悪くないが、当商店街は海外からの旅行客の見学ルートに入っており、ただ通り過ぎるだけの客が多く、あまり売上にはつながらない。逆に、一般客が買物をする妨げになっている。
		一般小売店[青果](店長)	それ以外	・台風の影響で、野菜の相場がかなり高騰していたが、ここに来て逆に安くなり過ぎている。これまでは販売単価が高かったが、今では単価が半分になり、売上が上げにくくなっている。また冷え込みが少ないので鍋物商材の大型野菜が動いていない。
		一般小売店[精肉](店員)	販売量の動き	・販売量も単価も変動はない。
		一般小売店[鮮魚](店員)	お客様の様子	・売れている店と売れてない店の差が顕著になってきた。
		一般小売店[生花](経営者)	販売量の動き	・9月の彼岸が終わるこの時期は、あまり良くない。
		一般小売店[茶](販売・事務)	販売量の動き	・野菜の価格高騰のしわ寄せがお茶葉に来ているのではないかと思ってしまうほど購入単価が低くなっている。来客数は増えているので売上は例年と変わらない。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・気候が安定し、アパレルテナントについては秋冬物が活発に動いており好調であるが、全体的には客単価が落ちており、客数も前年実績並みで推移している。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・伸びている商品は、紳士靴や婦人帽子、寝具、ナイトウェアといった、自家需要の雑貨・リビング商品である。高額商材は、時計やメガネ、ハンドバッグなどが好調である。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・3か月前も上向き基調だったが、今月も続いている。
		百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・当店の競合4店舗の売上はいずれも前年を割っていないので、今月の状況はやや良かった。また、当店の入店客数は、7月以降前年を超えている。非食品の客単価が96.8%、購買客数が105.1%で、食品は客単価が101.3%、購買客数が105.3%となっている。部門別の売上は、衣料品トータルでは97.8%、家庭用品91.9%、食料品107.1%、雑貨が93.9%となっている。
		百貨店(店舗事業計画部)	お客様の様子	・服や服飾品の売上は不安定で、化粧品、食品、雑貨が堅調という流れは変わらない。服や服飾品は9月上旬に気温が冷え込み始めてから動きだしたが、9月中旬から10月にかけて暖かい日が続き、客が秋物に反応しなくなった。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・都市部と異なり地方では10月の国慶節のインバウンド需要もなく、非常に厳しい1か月であった。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・株価の下落や賞与などの不透明感から買い控えとなっている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・価格が高騰している野菜を除いては、なかなか売上が伸びない。野菜以外の価格は下がっているが、それでも動きが鈍い状態である。特に家庭用品、雑貨類の動きが非常に悪い。



分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・急な冷え込みで鍋商材、冬物衣料などの動きが良い。販売金額は確保できているが客数は前年に届いていない。値上げの影響が大きい。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客数、客単価、購入点数共に下がっている。実質賃金が増えているとは言えず、厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・おにぎりの100円セールを行っていたが、セール終了後、他店で同じようなセールがあると、そちらのほうに客が流れていく。客としては1円でも安い商品があれば安い店へ行き、安定した集客に結びつかない。今後は長期の施策が必要になってくる。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・特に変化はないが、秋に向かって少し良くなっているようだ。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・晴天続きで来客はぼちぼちだが、冷やかし客ばかりで販売につながらない。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・10月は気温が高く、ニット類などの秋物の動きが弱かった。地元野球チームの優勝セールによる集客はあったが、ひと月を通して来客が少なかった。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・10月前半は比較的堅調な動きであったが、後半以降は天候要因もあるのか急激に落ち込んだ。要因としては、当店が主力とするシニア層ミセスの購買が、非常に慎重になってしまったことが挙げられる。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・台風が10月に来なかったので来店客が多く、まずまず結果が良かった月であった。
		衣料品専門店（チーフ）	来客数の動き	・今までは海外客の爆買いが売上の中心になることもあったが、今はやや減少傾向にある。客数の動きが鈍く、売上の減少が見受けられる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年と比べるとほぼ同じなのでどちらとも言えない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・大規模なイベントを開催しても新車の受注台数が伸びない。売れているのは一部の人気車種に限られている。コンパクトカーは軽自動車と競合し、苦戦をしている。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・今月は地元産業祭があり来場者数は多かったが、売上には結びつかなかった。一方、それ以外のイベントによる売上は順調に推移し、前年同期を上回る数字となった。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・新規顧客が増える一方、既存顧客の来店は減少しており、客数は横ばいの数字である。販売量も前年と前年と変わらない。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・ガソリンの小売価格は下げ止まりとなった。いまは満タンで購入する客が多い。10月の3連休などの行楽需要に期待したが、ガソリンなどの販売量は前年並みである。小売価格が下がった分、客はカーケア商品を購入しており、売上が微増した。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	販売量の動き	・アパレルの店舗の売上改善がみられない。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	単価の動き	・高価格帯の商品の動きが悪いため、売上が伸びない。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	販売量の動き	・先月は9月の大型連休で売上増となったが、今月は天候に恵まれ来場者数と売上が共に増えた。インバウンドに支えられている部分もある。
		その他小売【ショッピングセンター】（広報担当）	販売量の動き	・特徴的なセールやイベントを実施している店舗は集客がつまくいっているが、ふだん通りの営業をしている店舗は下降傾向にある。ネットやテレビに影響を受けて購買をする人も多く、「仕掛け」に敏感になっているようだ。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・昼の客数はある程度安定しているが、夜の客数が少ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・外国からの観光客頼みのところがある。この先、海外の景気に左右される部分があり、そこが不安要因になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行は引き続き好調であるが、海外旅行は9月の大型連休の反動が、高単価の商品が売れていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・例年10月は気候が良くタクシー利用者は減少する。今年も雨が少なく、平年並みであった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・当地にも韓国や中国から観光客がたくさん押し寄せているが、我々タクシー業界にはあまり影響がなく、ずっと横ばいの状況である。どちらかというバス会社のほうが業績は良さそう。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は入りが多かった割にはゴルフ客が少なく、タクシー利用が少なかった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・日中の客の乗車率はかなり良いが、夜の繁華街の売上がひどい状況である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・業種問わず特定の企業だけは調子が良いが、ほとんどの企業において景気の良い話がない。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・売上の前年比は横ばいで推移している。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べてあまり景気は回復しておらず、売上も横ばいである。年末に向けて少し業界も活性化していく。
		美容室（店長）	お客様の様子	・同窓会や旅行があるなど、必要に迫られて来店する客が多く、懐に余裕がある感じがしない。
		設計事務所（代表）	販売量の動き	・販売量などに変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産のマンション、戸建て分譲では、客の来客数がここ何か月は横ばいで、成約状況についても変わらず伸びがない状況である。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・7～9月まで実施していたキャンペーンが終了して、10月はやや来街客数は少なくなった。駅ビル開業、美術館の開業効果はまだ持続しているが、客数は若干下向きになっているようだ。
		百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・今月は中旬からの気温の低下に伴い、婦人服などの衣料品が少し動いている。特に今月は富裕層による高額商品の購入があり、中でも宝飾、美術などがかなり伸びている。理由としては、相続税対策による購入が考えられる。
		百貨店（営業統括）	単価の動き	・株価下落の動きや生活環境の厳しさが、特に高齢者の客の購買に表れている。来店はあるが、購買単価が落ちてきている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・最近、テレビ等で軽減税率の話題がのぼるため、増税が気になっている客が多い。それまでに節約するという客もいる。商品を決める際も、慎重に考え、その場で決められない客が多い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・青果の相場が1か月前より5～10円安くなっている。青果は前月までは112%で推移していたが、今月はやっと前年比105%となっている。青果の相場安で全体の流れも減る状況となり、100.3%ぐらいで推移している。衣料品は少し寒波が来たせいか売上が徐々に上がっており、前年並みの103%になっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店、コンビニエンスストア、ローカルスーパー共に販売数量は前年を上回っているが、3か月前と比べると3%落ちている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客数は変わらないが、確実に客単価が下がっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・本年4月の介護報酬マイナス改定に伴い、施設系、在宅系問わずサービスの単価がダウンし、経営に大きな影響を与えている。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・お稽古事を始める時期ではない。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月イベントを開催したが、3か月前に開催したイベントに比べ来客数は1割減となり、動きが少し悪くなっている。
		悪くなっている		
企業動向	良くなっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
関連 (九州)	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は原料事情も回復し、工場生産もフル稼働の状況である。天気が良く運動会などの行事もあるので、スーパーの販売も好調な動きである。業務用も居酒屋などで引き合いが強く、売上は計画を上回る予想である。冷食メーカーも年末年始の生産で原料注文が多く予定を上回る見込みである。		
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原料の収穫期で、製造も販売も比較的順調に推移している。		
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・新規物件の引き合いが多い。競争相手もあまりいない。		
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年はずべての月で、前年比で売上、利益共に上回っている。特に東京オリンピックや外国人観光客が増えている影響で、商業施設やホテルでの家具需要が多い。今年の売上は約25%増となっている。関東以外でもホテルの出店計画は拡大している。		
		電気機械器具製造業（経営者）	競争相手の様子	・発注元は年内までは仕事が多いそうだ。品質や生産性を上げていけば、徐々に良い状況になる確信している。		
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・地方で大手の撤退の動きがある一方で、一部事業を他社が買い取って継続する動きがある。商流によっては、増産も見られる。		
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新車投入効果によって生産数量も増え、安定している。		
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・客からの要望や動きはあまり変化がない。		
		通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業分野において、マイナンバー制度にかかるIT関連投資が活発である。		
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連の業種が多く、これまでは発注量が少なく大変厳しいという声が聞かれてはいたが、ここ最近は発注量も増えており、景況感ではやや良くなっているといった声が聞かれる。ただしこれまで工事量が少なかったこともあり、今後は状況をみていかなければならない。		
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・先月まで低調だった通信販売、旅行商品で前年を上回る出稿があり、全体の売上をけん引している。数が月ぶりに前年を上回った。		
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数・金額共に増加しており、企業の投資意欲が上向いている。		
		変わらない		農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・業界内の相場動向も含め、全体の大きな流れは変わらない。
				化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当工場の製品は、景気の影響をあまり大きく受けない。
窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・通常の商品の受注が活発ではない。10月にあったイベントの売上は前年度より良かったが、営業用としての受注活動はなかなか厳しいようだ。		
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・ユーザーからの受注量が相変わらず不安定である。秋口に入って期待は持っているが、なかなか思うようにならない。上昇する気配がないのが今の状況である。		
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・半導体設備部門が不調、自動車関連設備部門が好調である。		
輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き			・今月になって多少貨物の荷動きは良くなったが、依然今年の天候不順により段ボール関係、板紙関係の動きが良くなく、それに伴い商品の動きも悪くなっている。景気は回復していないような状況である。		
輸送業（総務）	受注量や販売量の動き			・特に荷物の量は変化していない。		
輸送業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き			・最低賃金やパート時給単価などは上昇しているが、物価は上昇しておらず、商品単価に連動する物流単価も上昇していない。結果的に人件費コストのみが上がり経営を圧迫している。		
金融業（従業員）	取引先の様子			・3か月前と比べてほとんど変わっていない。良くなる要因がなく、消費動向や客の様子も変わらない。		
金融業（従業員）	取引先の様子			・公共投資が減少傾向にあり、海外向け製品の生産もやや弱含んでいる。一方、雇用者所得は改善してきており、百貨店・スーパーなどの売上は持ち直してきている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・一般消費者に関わる業種である小売や飲食は、売上が低迷している状況が続いている。3か月前と状況は変わらない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・小売業の売上に変化はみられない。取引先の資金ニーズも変化はない。
		金融業（営業）	取引先の様子	・景気が良くなっているとは言えないが、製造業は高水準の受注を確保しており、円安による国内回帰の動きは定着している。
		経営コンサルタント	それ以外	・同業のコンサルの受注状況や活動状況を聞くとあまり活発なようではない。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・官公庁は、学校や病院の改修計画を国の指針に従い計画中であるが、新築せずに改修しながら効果的に施設管理していく方針である。ファイナンスを用いた計画案もあり、相談が増加している。民間事業者の中には、インバウンドに関連し民泊を事業化する動きなどもあり、各社リスクを取りながら先行者利益を得る活動をしている。新機軸となる事業を検討している企業は多い。
	やや悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・発注工事が少ない。受注競争のくじ抽選が多く、受注できていない状況である。官公庁は上半期で70%の発注を予定していたようであるが、約50%ぐらしか発注されていない。残工事がどの程度あるのか不安である。早期の発注と年度末に向けた大型補正を是非発注してほしい。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から発注される調査や計画等の委託業務の入札で、落札価格が予定価格より大きく下回る金額のケースが増え始めた。市町村からの業務発注数が減少傾向にあり、受注者側が請け負う業務が少なくなってきたことが推察される。
	悪くなっている			
雇用関連 (九州)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人に対して求職者の数が圧倒的に少なくなっている。売り手市場になっており、事務系案件でも中小企業の詳細がわからない求人には応募がない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年6～8月までの3か月の総数でみると総数9667件だが、今年6～8月は総数10854件となっており、求人数は増加している。一方、新規求職者は前年比で400人ほどの減である。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は減少傾向にあり、求職者数も減少している。労働環境は安定傾向にあるが、賃金の上昇傾向は頭打ち感がある。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・イベント施工の請負を行っているが、大手企業はイベント開催範囲や回数を増やす傾向にある。一方、行政関係のイベントは経費削減を強く要請されている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の数が減少している状況は変わらない。募集を出しても反応も少なく、契約に至る求人が減っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価が下落傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比マイナス1.1%の微減、前年同月比で4か月ぶりに減少した。欠員補充の割合が高くなっており、急募の比率も減少している。業種間にばらつきがみられるものの、企業における人手不足感はあまりない。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求人数は増加傾向だが、新規求職者数は減少傾向である。このため有効求人倍率はアップしているものの、就職件数は前年同月比でマイナスの状況が続いている。企業が必要としている人材の供給が滞っており、企業活動の懸念材料になっている可能性がある。景況は変わらないと考えられる。
		職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・新規求人の前年比での増加傾向が続いているものの、増加割合にややばらつきがみられる。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・派遣求人の動きが少ない。	
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・10月度の求人数は、前年同月より若干多い程度である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・企業の求人意欲はおう盛である。大学生が辞退する関係で十分採用が確保されていない状況がある。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・新卒採用活動も後半に入っているが、依然として中小企業を中心に求人数は増えており、人材獲得は活発に行われている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・市況感としては景気自体は上昇感はないが、建設業関連を中心に、新卒から中途まで採用に関しては活況である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・福岡都市圏では求人媒体が増えた分、掲載件数は増えているように見えるが、実際は同じ企業がいろいろな媒体を使っていたり、誌面に同じ求人が何度も登場していたりしている。そのため、求人数の実態がみえてこない。人が集まらないということもあるが、媒体社間の競争も激化している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・アジアからの観光客の内需もあり、アルバイトやパート中心にメディアの求人がここ数か月延びてきている。中国経済の動向で消費が落ち込み始めると、求人にも影響が出る。	
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・一部の造船業などで人材不足が深刻で技術者のニーズが高い反面、事務職の求人は少なくトータルで見ると景気は下降気味である。	

### 11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (沖縄)	良く なっている	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・利用人数、それから客単価共に上昇している。
		一般小売店〔菓子〕	販売量の動き	・観光入域客が安定的に増えている。その影響で購入が増えた感じがする。
	やや良くなっている	百貨店（営業部）	販売量の動き	・前年の当月より免税品目の拡大や競合他店閉店等の効果があった。本年は厳しいことを予測していたが、インバウンド効果や改装効果の継続により、懸念材料がありながらも堅調な伸びとなり、相変わらずの前年比2けた増となった。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年同期と比較して客数と客単価が伸びている。
	変わらない	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・良い状態が続いている。観光客増加が寄与している。
		旅行代理店（マネージャー）	来客数の動き	・旅行の問い合わせは多い。沖縄は陸路がないため旅行の大半が航空券を利用する事になるが、ホテルパックを利用しての航空券や宿泊が取りにくいのが現状である。その辺が改善されれば売上が上がる。
		スーパー（販売企画担当）	単価の動き	・原材料の高騰や、プレミアム商品など良い物の人気の一部にはあることから、一点単価のアップが続いていると思われる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・20代の来客数が伸びており、前年比で5%増になっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・一部地域で客単価が前年をやや下回っているものの、各部門の売上も客数に比例しており、個店の販売力は落ち着いているといえる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・季節の変わり目で客は何を買おうか迷っているようにみられる。
	その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・10月は那覇市内の祭りまでは客が少なかったが、祭り以降は来客や購入が増えてきた。客の購買力からは景気が良くなっているような気がするが、まだまだ安い商品や消耗品ばかりである。しかしネットでの問い合わせも増えてきているので、全国的に景気が上昇しているような感じはしている。年末商戦へ向けて商店街や県、那覇市のイベントにも期待したい。	
		観光型ホテル（マーケティング担当）	販売量の動き	・稼働率の前年同月比のプラス幅は、3か月前とほぼ同程度になる見込みである。外国人客や企業の報奨旅行等の団体宿泊利用も有り、好調な状況である。
	通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・一時的にスマートフォンの新商品の効果はあったが、前年よりも悪い。	
	住宅販売会社（代表取締役）	お客様の様子	・本島北部で、他社設計ではあるが、宿泊施設やセカンドハウスなどの建築工事の相談がある。従来とは異なった客層の動きが感じられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・例年10～11月は売上が悪いが、そのなかでも地域によりパターンが明確になりつつある。一般的に金曜、土曜は集客できる曜日であるが、地域によっては週末地元入客の落ち込みが大きくなっている。
		住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・展示場への来場客数が前月比15%減、前年同月比では20%減となっている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	競争相手の様子	・観光客の通りはあるが販売にはつながらない。爆買しているのは、一部の大型店であり、商店街の小売店では競争には勝てず、危機感がある。売上も減少している。
企業 動向 関連  (沖縄)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（総務）	受注量や販売量の動き	・各取引先への売上が全般的に微増ではあるが伸びている。特に観光関連向けが良く伸びている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共、民間共に前年比減であるが、やや回復の動向となっている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・高額な新築住宅建築の契約が増えている。
		輸送業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・一般的な物量自体は大きく増えてはいないが、人件費高騰による原価増に対する荷主との条件改定が進み、収益増となっている。また原価の一部であるトラック燃料も安くなり、収益改善の後押しとなっている。
	変わらない			
	やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連  (沖縄)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集室）	求人数の動き	・求人件数が、3か月前と比較すると週平均で63件増加している。
	変わらない	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・長期案件への求職者の動きが鈍いが、年末、年度末までの短期の案件への求職者の動きはある。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-